魚津三太郎塾
ポスター集

第1期　平成23年10月～24年3月

第2期　平成24年10月～25年6月

第3期　平成25年11月～26年8月

第4期　平成27年2月～10月

第5期　平成28年3月～11月

平成28年11月28日作成

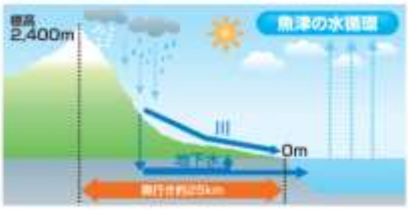
企　業　名	提案者（塾生）
魚津印刷㈱	森内　将史
魚津水族館	伊串　祐紀
㈱魚津清掃公社	蔦　浩一
オーアイ工業㈱	有賀　淳一
海風亭	美浪　呂哉
㈱関口組	関口　雄介
にいかわ信用金庫	島津　敬治
新川森林組合	佐竹　謙二
㈱ハマオカ海の幸	朝野　愛子
本田会計事務所	荒地　浩志

紙の地産地消

“切っても切れない”紙と、魚津の水循環の“関係”

魚津市は、海岸から標高2 ,400㍍以上の山岳地帯に至るまでの直線距離がわずか25㎞しかない急峻な地形から成り立っており、毛勝三山などの山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、地下水や川となって富山湾に注いでいます。この水循環によって生まれる水は、飲用や産業用にも利用され、魚津市の水道水は100%地下水でまかなうことができています。

この貴重な水循環を残していくためには、海の環境保全はもちろんのこと、山の保全も重要と思われます。しかし、この水循環がとても大切であることに市民の関心は低く、まずはこの水循環への意識を高めていくことが必要ではないかと思われます。



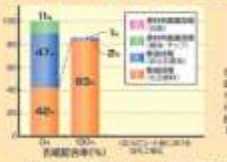
1 当社が魚津の水循環にどのように関わることができるのか？

当社は、印刷業として魚津市で50年の実績があり、市の広報紙をはじめ、パンフレットやチラシ、商業印刷物(伝票類)など、印刷物全般を取り扱っております。

今回、三太郎塾に参加させていただくことによって、印刷業として何らかの形で環境保全に貢献できるのではないかと社内で話し合い、社員が業務の枠を超え、環境に対する意識改革へと繋がりました。

その中で、よく使われる再生紙について調べてみましたが、再生紙を選択することが本当に環境保全につながるのか疑問がでました。

古紙配合によるCO2排出への影響



2 再生紙以外の選択肢はないのか？

間伐材を利用して紙を作ることができないかと考えました。さらに、魚津の間伐材を利用して紙を作ってくれる製紙メーカーを探するとともに、利用するにあたって、魚津市になるべく近い製紙メーカー（輸送コストなどを考慮して）である、中越パルプ様(工場：高岡市)に直接相談してみました。

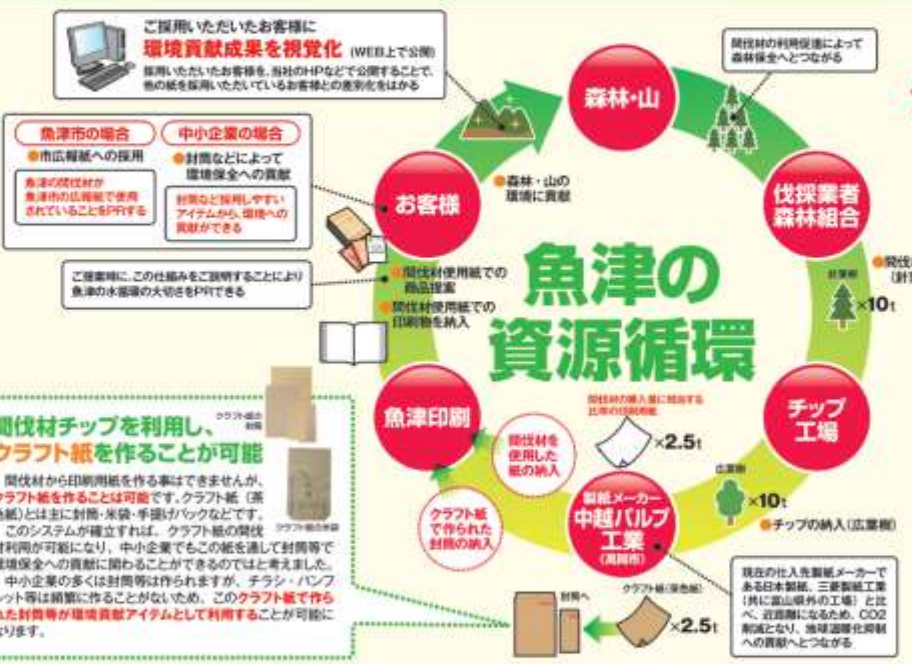
3 間伐材を利用して紙を作る事が可能か？

中越パルプ様から**間伐材を印刷用紙に使うことは、今の技術ではできない**事を聞かされ驚きでした。その理由は、間伐材のほとんどは杉であり、杉の繊維は伸縮することから印刷紙としては利用できないことを聞かされました。

4 間伐材を利用したエコシステム作りは可能！

間伐材の紙を作る事ができないのであれば、システム作りをしてはどうかと考えました。そのシステムの流れは下の図ように**クレジット方式にする**ということです。

間伐材からできる紙量は、計算することが可能で、間伐材の約1 /4が紙になると考えられます。そこで**間伐材の購入量から実際の用紙にクレジット換算**することが可能になるということです。



間伐材を利用したクレジット方式のエコシステム

間伐材の**購入量に相当する比率の印刷用紙**を使用した商品をお客さまに提供することができるシステム。

間伐材チップを利用し、クラフト紙を作ることが可能

間伐材から印刷用紙を作る事はできませんが、**クラフト紙を作ることは可能**です。クラフト紙（茶色紙）とは主に封筒・米袋・手提げバックなどです。

このシステムが確立すれば、クラフト紙の間伐材利用が可能になり、中小企業でもこの紙を通して封筒等で環境保全への貢献に関わることができるのではと考えました。

中小企業の多くは封筒等は作られますが、チラシ・パンフレット等は頻繁に作ることがないため、この**クラフト紙で作られた封筒等が環境貢献アイテムとして利用する**ことが可能になります。

このシステム作りの問題点！

このシステムを作るには大きな問題点がありました。それは、**紙の価格**です。

今、当社で使用している用紙、ニューVマットより高値になってしまいます。それを解決するには紙の生産量を増やすことです。

下のグラフでもわかるように、**間伐材を利用した紙の生産量を増やしていく**ことで問題を解決できます。

「紙の地産地消」によって生まれる“3つの展望”と“5つのメリット”

3つの展望

間伐材を利用したクレジット方式で

●環境保全への貢献
●環境意識の向上

子どもの学習支援

売上金の一部を利用して、市内の小学校の児童に、間伐材で作製されたノートを贈呈します。そのノートには、「魚津の水循環」の大切さや、「紙の地産地消」で**印刷物を制作していただいた企業名を掲載します。**それによって**子どもたちに水循環の大切さを教えます。**

地域防災

魚津市内には片貝川、早月川、角川が流れており、流域の集落には山間地帯を多く含みます。

間伐を促進することで、台風や水害、地震等での災害から、**地滑りを防止する**ことができます。

間伐を促進して、地域防災に役立てましょう。

世界の環境保護

日本は多くのパルプを輸入に頼っています。そのパルプは、輸出先の国では植林が行われていないために、森林の面積は減る一方となっています。

パルプを魚津の間伐材に切り替えるだけで、**大幅な地球環境の保全**に役立つものと思われます。

5つのメリット

1 魚津の間伐材の利用促進

2 紙を変えるだけで環境に貢献するという手軽さ

3 紙の輸送による環境負荷の軽減

現在、当社の主要な紙は、日本製紙や三菱製紙工業の富山県外にある工場から仕入れております。

中越パルプ工業は工場が高岡市にあり、近距離となるため、輸送でのCO2排出が抑制されます。

4 ご採用して頂くため、当社が積極的にPRすることによって環境意識の向上

ご採用頂くに当たって、魚津の水循環の大切さをご説明する機会ができ、環境PRにつながります。

5 当社のブランド化

魚津印刷株式会社
〒937-0068富山県魚津市本新町27-13
TEL 0765-22-0253

たびのひと 旅人発

魚津の自然で子供の笑顔を！

～田んぼ編～

魚津水族館　伊串祐紀

魚津の水

魚津市は、水の源である毛勝山から海までの距離が 25㎞ と極めて短く、清涼な水が河川水や地下水となって富山湾へと注ぎ込んでいます。この水は市民にとってまさに「命の源」です。この水について、今考えるときです。

旅人から見た魚津の印象

一言で言えば「自然豊か」。生き物が多く、水はキレイ。夜になればホタルが舞い、カエルが鳴く。これって、とても素晴らしいことだと思います。

⇩

でも、自然とふれあう子供がいない！！

⇩

自然が当たり前すぎる？
危ないから？
ふれあい方が分からない？

愛知からの旅人が見た魚津にいる珍しい生き物

魚津の自然を利用して、子供たちと何か一緒にしたい！！

子供たちへの思い

- もっと魚津の自然に親しもう
- 生きものたちとふれあおう
- 魚津の自然が育んだ安心安全な地産品を食べて笑顔になろう

目指す姿はコレ

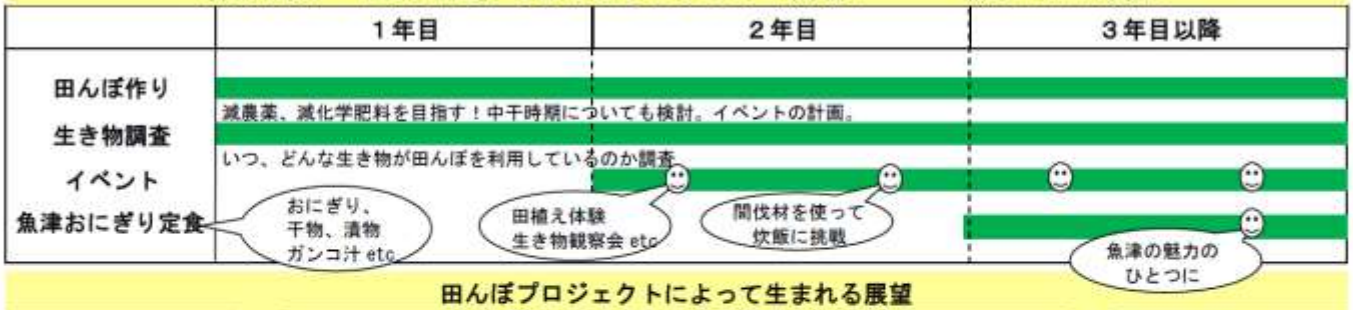
学芸員の僕ができることは

野外で楽しむ「しくみ作り」

魚捕り、虫捕り、観察、魚釣り
田んぼ体験（田植え、草取り、稲刈り）
野草茶作り、自然探検、自然を食べる
写真、絵、俳句、詩
etc・・・

安全でうまい魚津のおにぎり（愛情たっぷり ）

片貝川沿い「山女地区」で田んぼプロジェクト開始！　協力：MK農産



田んぼプロジェクトによって生まれる展望

にぎやか田んぼ完成	ふれあいの場	体験観光	魚津おにぎり定食	水族館を使おう
生きものがたくさんいるにぎやかな田んぼ！お米はもちろん安心安全です！	野外型イベントに参加して「自然とのふれあい方」を学習します。	キャンプ場が近いので「魚津の自然体験ツアー」も実施できます。	安心安全な米で作ったおにぎり、富山湾の魚で作った汁や干物など魚津を丸ごと食べられる定食です！	自然への入口、出口である水族館で理解を深めよう！
環境の保全 安全な米	自然への関心 自然体験	地域の活性化 自然への関心	環境保全を 味わう	魚津の自然を見る 学習

魚津で遊び、世界の自然を守る！！

水・食・環境「エコふぁーむ魚津」

ここは必ず誰かに会える場所、四季を感じる環境のテーマパーク

魚津の水循環について

たった奥行２５ｋｍの距離、２４１５ｍもの高度差の中で海⇒山⇒川⇒里⇒海とめぐる循環が完結。
海の水は蒸発して雲となり、雨や雪となって大地へ降り注ぐ。その水は山や川に生きる多様な生物をはぐくみ、また海へと帰っていきます。
魚津の海と大地の循環の中で作り出される水は、飲用にも産業用にも適した優れた水質を保っています。

魚津清掃公社の取組

魚津清掃公社は昭和４４年より魚津市内において浄化槽維持管理、下水道処理施設維持管理など生活排水を河川レベルにもどすことを業として行ってきました。廃棄物処理、リサイクルなど生活に密着した仕事をしている我々にできることはこの恵まれた環境を未来の子供たちに残すためにできることから始めます。

コンセプト

水・食・環境「エコふぁーむ」は事業所や家庭から出るリサイクルごみを常時受け入れたり、家庭の不用品を販売するリユースショップの開設、堆肥化施設、廃食油を利用した燃料、石けん作りなど環境に関する活動や教育を行う環境啓発の拠点となる施設と目指します。

私たちができる　魚津の水循環　それは“水”を守る事

３つのキーワード

山を守る	廃棄物として処理される事が多い間伐材バークや剪定枝。植繊機を用い木質繊維を解体し発酵分解を促進する技術で良質で完熟した堆肥を作り大地に戻します。
食を守る	堆肥を使い大地の地力を取り戻し、化学肥料に頼らない「おいしくて安心・安全」な農業を目指します。
環境を守る	食べ残し・調理くずの“もったいない”を大地に返します。

株式会社魚津清掃公社　魚津市大光寺６１－１
TEL　0800－600－5300

事業名称：オーアイ工業における水資源の継続的利用と有効活用

オーアイ工業(株)　有賀淳一

■魚津の水循環とは

魚津市は、海岸から標高2400mを超える山岳地帯にいたる高度差が、奥行き約25kmの中に凝縮されています。

この独特の地形により、山岳地帯で降った雨や雪が、川や地下水となって富山湾に注ぎ込み、その水が雲となってまた山や里に雨が降るという「水循環」が一つの市内で完結しています。

この水循環がもたらす、豊かで美しい水資源を、これからも継続的に且つ有効に活用する方法を見出します。

■水へのこだわり

“魚津の地の豊かで美しい水資源を活かし、質の高いものづくりをしていきたい”という創業当初からの思いは、今でも変わりません。

「なぜ、そこまで水にこだわるのか？」私たちは女性の脚の皮膚を、顔と同様“肌”として捉えているからです。

ストッキングをはじめとしたレッグウェアづくりには、相当量の水を使用します。ストッキングを直接肌に触れる第二の皮膚と考えると、製造過程の中で使われる水は、言わば“化粧水”と言えるかもしれません。

■これまでの取り組み

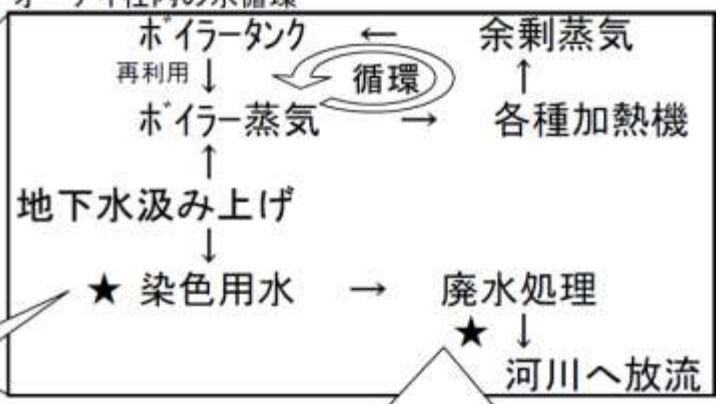
当社敷地内に25mプールよりも大きな排水処理プラントがあります。染色で使用した染料等の混ざった廃水を、国及び地方自治体が定める排出基準よりも10倍厳しい自主基準を設けて、河川へ放流しています。

放流した河川では、蛍を見ることもできます。

■水の継続的利用と有効活用

魚津の水循環

オーアイ社内の水循環



【染色用水の削減】

染色給排水のオートメーションにより、染色用水の削減を目指します。

⇒ 地下水の汲み上げ量を削減し、地下水資源を継続的に利用できるようにする。

【廃水処理排水の再利用】

①融雪利用

⇒ 地下水の利用量削減

②排水を利用した小水力発電機の設置及び電力エネルギー創出の検討

⇒ 資源の有効利用及び電力コストの削減

③電気自動車を導入し、小水力発電機により発生した電力活用の検討

⇒ CO2排出量の削減。
近隣の、協力工場や外注先との資材・製品の運送が多いため、電気自動車の利点が十分に活かせると思われる。

■今後の展開

自然にやさしい、女性にやさしいレッグウェアを追求し、「お客様」「社員」「地域」を大切にするという理念の下、環境対策・地域振興への協力を検討していきたい。

食べるだけで自然を守る 魚津物語 ごっつお丼

2012.03.28

提案者

日本料理
海風亭

魚津駅前で日本料理を提供して創業100年。私、美浪呂故で5代目になります。漫画「美味しんぼ 富山編」で当店の"ゲンゲの竜田揚げ"が紹介され、県外からの利用客も増えました。ランチの海鮮丼は、890円と格安で1日約30食出る人気メニューです。また、宴会の会席料理や茶事懐石など、幅広くお客様のニーズにお応えできるのが当店の強みです。

魚津の地形と水循環

●世界的にみてもまれな地形

魚津にある標高2400m級の山々、そして海岸から沖にでると、岸からの距離およそ25kmで一気に深海まで下降。直線距離50kmの中におよそ3500mの高低差があります。

●海と山を駆け巡る水の大移動

海水は蒸発し、水蒸気となり雲になります。その雲は魚津の町、里山などに恵みの雨をもたらします。その雲は山まで到達しますが、高く広い立山を越えられない雲は留まり、雨や雪に形を変え、海からの水を運びます。

●水の通り道

山に下りた水は、主に2手に分かれます。一方は川の流れに乗り、海を目指す水。もう一方は山の地面にもぐり、地下水として海を目指す水。それぞれ異なる帰り道ですが、どちらも魚津には必要不可欠な水です。

水循環で栄えた魚津

●川の水は産業・工業・農業を支える

魚津の三大河川、角川、片貝川、早月川の周りには数多くの企業が立ち並びます。それはたまたまそこに出来たのではなく、水を求め、水を使うことで発展してきました。また大きな川は、いくつもの小さな小川になり、農業を支えます。

●地下水は海に戻り、湧水となり水産業を支える

10年以上長い年月の間に、草や香も葉、硬い土や柔らかい土、いろんな所を通り、その体にたくさんの栄養分を集めて海に帰ってきます。その水は湧水と呼ばれ、そこに集まる魚たちは、湧水で育つ栄養豊富なプランクトンを食べるので、「うまい魚」になります。またプランクトンを求め魚が集まり、なんと日本で獲れる3分の1の魚種が富山湾で水揚げされるのです。また街でくみ上げられた地下水は、「うまい水」として、その水は飲食業を支えます。

観光標など、魚津の三大奇観にも深く関わり、魚津の観光業を支え、水の恩恵を受け、企業がそれぞれ発達し、金融業を支えています。

このように、**水循環があったからこそ今の魚津がある**といえます。

失われる水循環

しかし産業の発展による自然破壊、地球温暖化などの影響で、恵まれた自然環境や生態系は徐々に変化し、水循環も失われる危機に今、瀕しています。

- 冬山の降雪量が下降傾向にある。
- 魚の水揚げ量が下降傾向にある。
- 川や地下水が枯れることもある。
- 魚津では昔獲れていた魚が獲れなくなり、南の方にいた魚が獲れ出した。
- 50年後には富山湾の海水温が2度上昇するという試算が出ています。人間でいえば10度近い上昇です。

水循環を守るために・・・

1、水循環の**認知度**を高め、**意識変革**を起こす

2、**水循環を守るビジネス**で、継続的な保全活動

3、**気軽に楽しく**取り組めるエコで盛り上げる

じゅんかん屋

水循環を守る活動母体
「じゅんかん屋」

魚津の水循環を守るために食材・食品・食器などを商品開発し、売り上げの一部を市の環境保全基金に寄金にします。つまり、

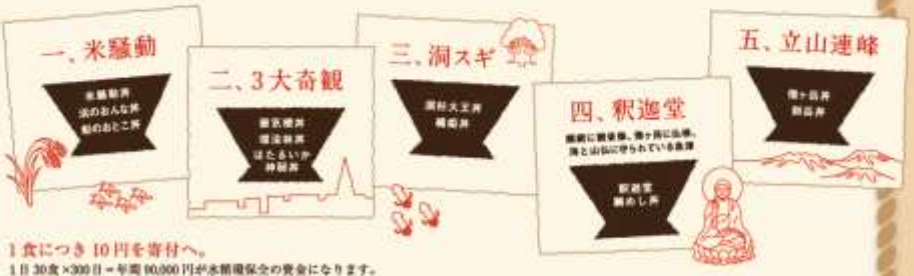
食べるだけで自然を守ることができるのです。

食器などは、間伐材（杉・竹）を利用することで、さらに循環型のシステムを目指します。

「じゅんかん屋」は当店だけでなく、いろいろな企業や団体と協力して効率を上げることを目的としています。「じゅんかん屋」をブランド化し、その価値を高めていきたいと考えます。

商品案：1 食べるだけで自然を守る 魚津物語 ごっつお丼

魚津の歴史、魚津の自然にまつわる**物語**を、食べるだけで学び、イメージできる丼。



1食につき10円を寄付へ。

1日30食×300日＝年間90,000円が水循環保全の資金になります。

「ごっつお丼」は食べる人が美味しいと感じるだけでなく、物語があり、面白いと感じる丼を作りたいと思います。観光客には米騒動の米蔵や、三大奇観などの観光名所に興味をもってもらうと同時に、魚津の水循環を知り、水循環の認知度と旅の満足度アップの効果が期待できます。

メニューBOOKには魚津にまつわる物語の説明をつけ絵本、写真集のような見て楽しい物にしたいと思います。またそれをランチマットなどにして販売、寄付金に。

商品案：2 間伐材を利用した「魚津漆器」

使い道のない間伐材（杉・竹）を加工し、食器にして販売。魚津の伝統文化でもある「魚津漆器」に加工することで、商品価値を高め、さらに伝統文化を継承できます。

間伐材の食器は、仕入原価に300円プラスして販売。300円は寄付金になります。

この事業により見込める成果

- ☑ 魚津の水循環、自然を守る上での資金面での援助。
- ☑ 水循環をはじめとした、魚津の観光資源をわかりやすく楽しく伝えられる。
- ☑ 市民の意識改革により、環境保全や観光PRへの協力

「魚津物語 ごっつお丼」を通して、市内・市外・県外の人に、楽しみながら魚津の恵まれた水循環を知ってもらい、
魚津のブランド価値を作る→観光客が増える→「魚津丼」を食べる→収益の一部が環境保全に→魚津の自然も守り続けられる。
水循環を守りつつ魚津の経済が成長するという、循環型システムができると思います。

魚津のこれからのために

魚津には、伸びしろがたくさんあると思います。今は多くの人が気が付いていないだけかも知れません。宝の山です。2014年、北陸新幹線も開通しますが、魚津には止まりません。年々人口も減り、課題が山積みなような気がしますが、やり方次第では魚津はまだまだ発展できると思います。なぜなら素晴らしい自然に恵まれており、人が集まる資源があるからです。伝え方、見せ方の工夫で、観光地としてもさらに期待できると思います。また産業も今まで以上に発展できると思います。

自然の恵みを活かし、守りつつ発展していく。
それが魚津の生きる道だと思います。

地元建設業者としての水資源の保全と有効活用

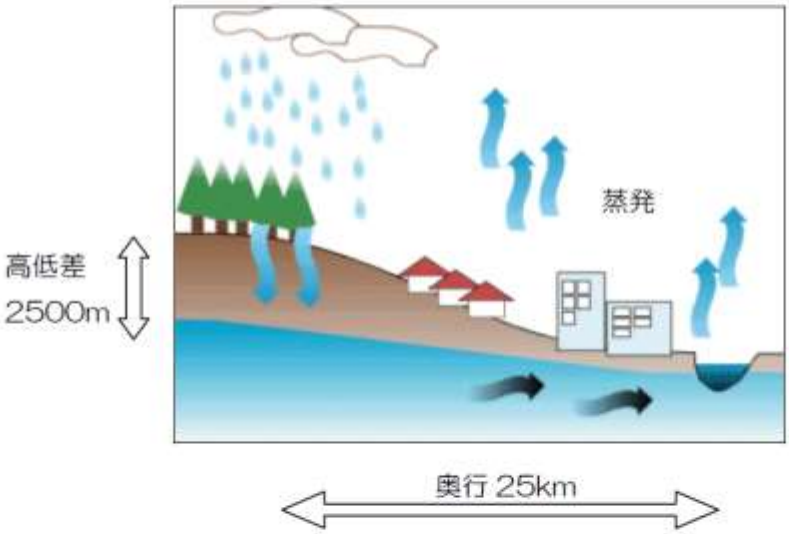
株式会社関口組　関口雄介

＜魚津市の地形と水循環＞

魚津市は高い山岳と海があり、海から山岳までの奥行が25km。そして、高低差が2500mである。今まで当たり前に思っていたこの地形は、全国でも有数であり、奥行は狭く高低差があることが、水がキレイで美味しい理由である。

水循環とは、山に降った雪や雨が川、地下水に流れ、長い月日をかけ海に流れ着き、やがて、蒸発し雲となる。そして、また雪や雨が山に降ることである。この自然の恵みで起こっている現象を保全していくことが重要であり、また、エネルギーとして有効活用することが今後の課題だと思う。

～水循環のイメージ～



＜自社の技術と特徴＞

弊社は明治８年創業以来、魚津市内を中心に道路や海岸整備、河川工事などの公共工事を行なっております。また、学校、介護福祉施設等の公共施設、店舗や住宅の設計施工を行なっています。施工は一部、自社で行いますが、大部分は、特定建設業のため色々な業種の職人さんを監督し計画、管理を行い、人々が「安心して使える」、「生活がより便利になる」をモットーに、品質の高いインフラ整備を行なっております。

＜魚津の水循環との関わり＞

建設現場における環境問題は以前からあり、水質汚濁や土壌汚染等がある。工事のため濁ってしまった水やコンクリートが混ざった水はそのまま川に流すと汚濁してしまうため、適切な処理すること必要不可欠であり、これかも引き続き取り組むべき事項である。また、バックホウ等の重機がいない工事現場はほとんど無く、地球温暖化の観点からCo2の排出の少ない重機の使用を行なっていきます

簡易式濁水システム

バックホウ（ハイブリット式）

ハイブリットシステムの仕組み

＜今後の展開＞

・今後も工事現場の環境問題（水質汚濁、土壌汚染）に配慮し工事に取り組む。

・魚津市の高低差を利用した小水力発電を検討する。

・建設現場から排出する産業廃棄物（バイオマス資源）の有効活用を考える。

魚津の水循環と地域産業の可能性

魚津市の自然環境と市民のつとめ

私たちが生活する魚津市は、早月川・片貝川上流の山岳地域標高約 2,400m から、富山湾の深海約 1,000m の標高差が、コンパクトにおさまるユニークかつ世界でも珍しい自然環境である。山岳丘陵地帯に降り注いだ雨や雪は、河川を流れ、また長い年月をかけて地下水となり、私たちの生活や食文化、そして様々な産業活動に、大きな恵みをもたらし続けてきました。これからも私たち魚津市民がこの恵まれた自然の恩恵を享受し、今ある生活をし続けていくには、この恵まれた自然環境を守り続けなければなりません。

自然資源（エネルギー）に溢れる魚津

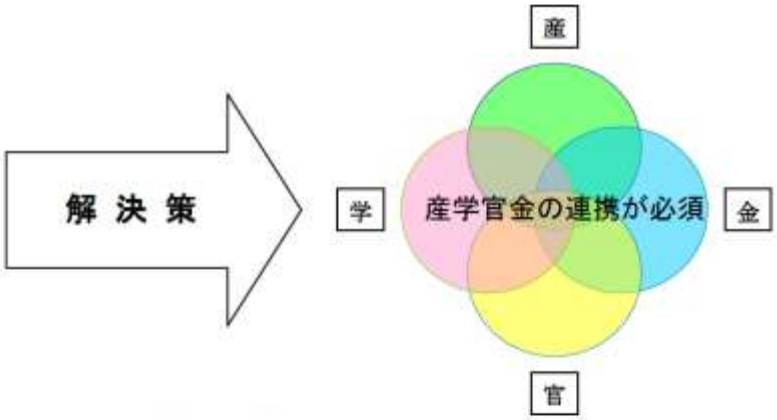
2011 年 3 月の東日本大震災により原発の存続そのものが問われる今、この自然エネルギーは「再生可能エネルギー」として、これまでにないほどに注目を浴びることになりました。再生可能エネルギーには、太陽光、風力、小水力、地熱、バイオマスなどがありますが、富山県は全国でも地熱と小水力に対するポテンシャルは極めて高いとされ、魚津市も豊富な水量と高低差のある地形では、実に小水力発電に適した環境と考えられています。

再生可能エネルギーの特徴

① 自然由来
② 再生可能
③ 持続可能
④ 地域偏在

小水力発電に関する問題点

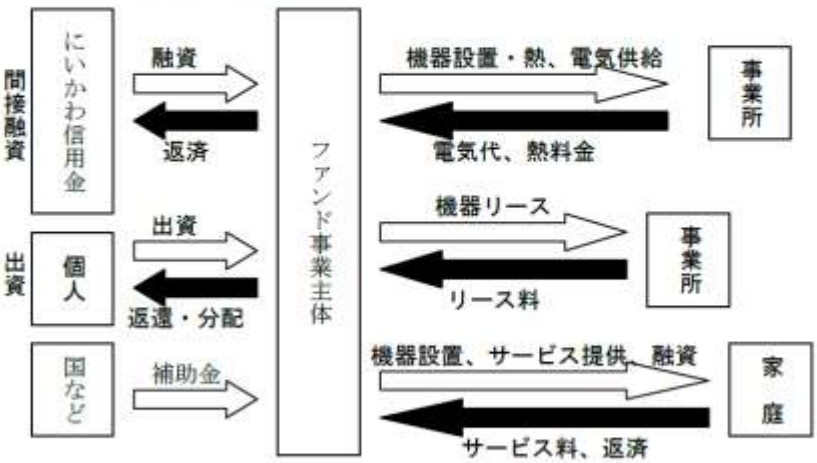
① 供給安定性
② コスト
③ 法令・諸制度
④ 技術
⑤ 運営（人、モノ、金）
⑥ 資金調達（設備投資）



これからの信用金庫

長引く不況と少子高齢化、過疎化等の社会問題などから、地域産業の先行きはとても厳しく、信用金庫も従来のコア業務である預金・融資業務だけでは、経営が成り立たない時代が到来している。信用金庫の強みである地域住民との繋がり、そしてコンサルティング能力をこれまで以上に高め、地域全体と協力し合いながら新しい産業そのものを作り出す牽引役に務めていかなくてはならない。

信用金庫の期待されるスキーム



にいかわ信用金庫

富山県魚津市双葉町 6 番 5 号　TEL（0765）24-1214　FAX（0765）22-7738

森を育み使って守る魚津の水循環

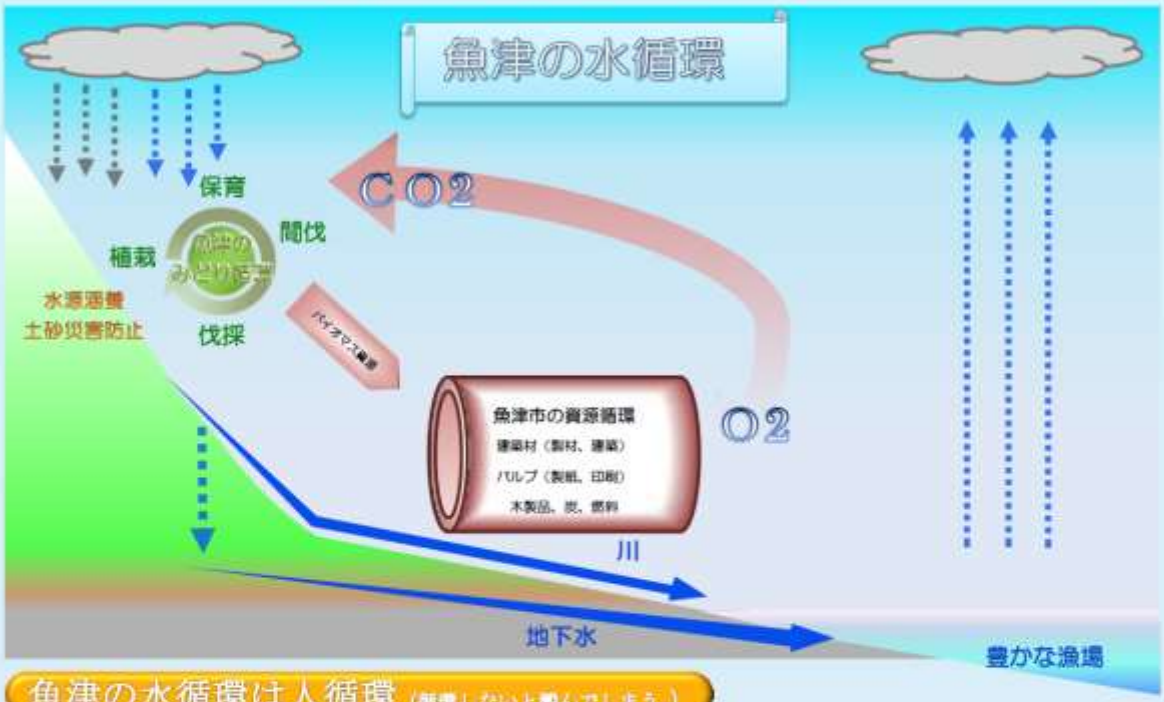
新川森林組合　佐竹謙二

山は水環境のねっこ

海から蒸発した雲が 2,500m級の立山連峰に阻まれ、冬には雪となって山間部に溜めこまれます。春からは大量の雪解け水になり、25ｋｍと非常に短い距離で河口まで流れ、清潔なまま海へと供給されます。また地下へと浸透した水は、20年の時間をかけて純粋な水となり、直接海へと湧きだし、埋没林を2,000年もの間守り続けてきました。このような水と富山湾の水深 1,000mに達する地形が、多様な水産資源を育み「魚の津」魚津を形成しています。魚津の産業は、高度差3,500mの水の恩恵によってもたらされています。

新川森林組合は、滑川市から朝日町までを管内とし、森林所有者の多くが加入している里山地域に密着した組合組織です。森林整備計画立案、整備作業、伐木の受託販売、木製品の加工販売まで、「植える」「育てる」「使う」をすべてサポートしています。

温暖化等、環境変化によるゲリラ豪雨で多発する土砂災害等は、地形要因以外にも荒廃した森林も引き起こすことがあるので、間伐等計画的な森林整備を行い、山を魚津の水環境のねっことして支えていきます。



魚津の水循環は人循環（循環しないと滅んでしまう。）

環境に配慮した産業循環を三太郎塾から。

林業の再生。雇用環境の改善。
山から海までの産業が循環する協力体制。
森林整備、間伐材への理解。
間伐材（木材）の需要拡大。
地消できるバイオマス資源としての可能性。

魚津の水循環を守ろう

寒の汐ぶりで水循環に寄与

株式会社 ハマオカ海の幸
富山県魚津市港町３－１
TEL:0765-22-0954　TEL:0765-22-0954
URL:http://www.shiomon.com

魚津の水循環　～高低差3,400mを一気に流れる水循環～

「海底地下水」を支えるのは森林

「魚津の水・魚」が旨いのは、その地形と大きく関わっています。天から降る雨は、日本海の海水が蒸発し、雲となり、地上800m～1,200mの山にぶつかり、雨や雪を魚津の大地に降らせます。その降った雨や雪は、川から流れ、海へと戻るものが７～８割りで、他の２～３割のものは、森の木が葉や根っこから水分を吸収し、魚津の大地に浸透させています。そして、10～20年かけて「海底の湧き水」として、海底からじわじわと溢れ出ています。従って、今ある魚津の「海底地下水」は、10～20年前に降った雪や雨の水ということになります。この間、森林は水に旨みを与え、土は水にミネラルを与えてくれます。すなわち、10～20年間の森林や土の恩恵を受けていることになります。

この水循環のお陰で優れた水質を保つことができるので「魚津の水・魚」はうまいのです。水循環の高低差は実に3,400mにもなります。これは、全国的にみても稀なものです。

今後、この水循環そして海底地下水（海）を守り続けるためには、現在の私たちのライフスタイルを見直していく必要があります。

湧き水を守っていく為に…

かつて漁業関係の商いを行う者は「魚付林」を行っていました。

「魚付林」とは海に魚が生息できその魚で商いができるのは、山や森林のお陰であるという思いから、植栽や間伐など山や森林を育てることに金銭を寄与したり、植栽などをすることです。

経営資源を活かして水循環に寄与、そして地域の活性化へと

「甑瓶の湾」より一夜干を…が当店の商品キャッチフレーズです。創業して60余年間、ここ魚津を拠点に魚介類販売に取り組んでいます。お客様にいかに喜んでいただけるか、事業を継続していけるかを念頭におきながら商いを営んでおります。

当社の看板商品「寒の汐ぶり」は、昔から富山県の皆様に親しんで頂いている商品です。寒ぶりのみを使用することで、身が締まり、脂がたっぷりのっているので、霜降り肉のような甘味があり、焼き魚・ぶり大根・生ハムのように薄くスライス（ぶりハム）してお刺身としても味わえます。

この「寒の汐ぶり」を活かして魚津の水循環に寄与、魚津の地域活性化に貢献していきます。

提案

1. 魚津の間伐材からできた「木のラベル」を使用します。
2. 「寒の汐ぶり」の売上の一部を森林保護のために寄与をし、そのことを「木のラベル」の裏面に記載します。
3. 「魚津の水循環」のシンボルマークを考案します。それを「寒の汐ぶり」のパッケージに貼るもしくは「木のラベル」に印刷します。
4. 「寒の汐ぶり」を、他社との差別化を図り、この商品が「魚津の水循環」に寄与しているイメージをつくります。

自社の資源「寒の汐ぶり」を使っての目指す効果と今後の展開

目指す効果

寒の汐ブリ

木のラベル　有効利用　間伐材購入

間伐材

水環境寄与のモデル商品
「寒の汐ぶり」の販売が山や森林に寄与する商品とする取り組みが波及。

消費者の環境への感心度UP
「食事は自然の産物である」という感謝の気持ちをもってもらい「格好いいエコ」ではなく、「心からのエコ」を感じてもらう。

魚津市の地域活性化へ
経営資源を活かした「水循環」を守る取り組みが体制を呼び注目されれば地域の活性化につながる。

水循環に関与する商品

自社内外の方々と協議しながら、新たな「水循環」に寄与する方法、そして容器・包装などの視点からもエコな商品を考案し、また、消費者が求めるエコな商品を探り商品化に結びつけられるようにしていきます。

そして、それらを各小売店に提案することで販売網を広げることで、売上もそれに伴う寄与も向上させられるようにしていくことが今後の大きな目標と捉えています。

各企業・組合・団体との連携を目指す

郷土資源活用事業への支援サービス

『恵まれた環境が
郷土の経済を支えています』

山があり、川があり、海がある。当たり前の風景、当たり前の環境が実は多くの豊かさをもたらしています。

海から山へ、わずか２５㎞の距離に２，４００mの高低差。さらに深海１，０００mの富山湾を合わせると、高低差で３，４００mものダイナミックな地形。

そしてこの地形を様々な形で循環する”水”。

水循環が郷土の漁業・農業・産業、そして市民の生活を支えています。この誇れる美しい環境を守り、将来に渡り共益できるよう育んでいかなければなりません。

本田会計事務所の提供サービス

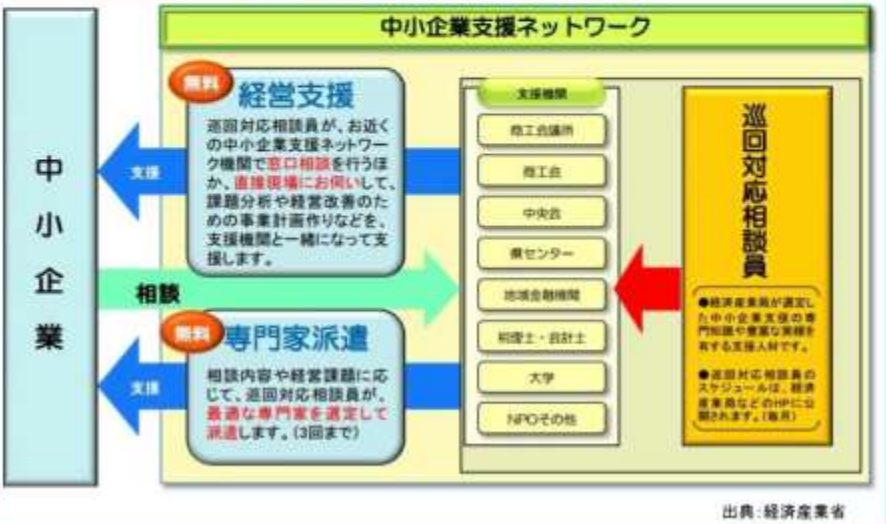
当社は県内の約５００社のクライアント企業に、サービスを提供しています。環境変化のスピードが増していくなか、事業計画策定支援サービスを様々な業種に提供し実績を積み重ねてきました。

Q：そのような当社が地域のために何ができるのか。郷土の環境を育むために、当社のサービスをどのように活かすのか。

中小企業支援ネットワーク強化事業

A：当社は地産地消やエコリサイクル、自然エネルギーの開発等の郷土資源を活用することを事業目的とした企業へ、経済産業省の政策を活用しながら事業計画策定支援サービスを提供することで郷土環境を育むための一助となります。

巡回対応相談員の支援の流れ



出典：経済産業省

本田会計事務所
〒937-0041　富山県魚津市吉島1-12-5
TEL：0765-22-5737　FAX：0765-24-6500

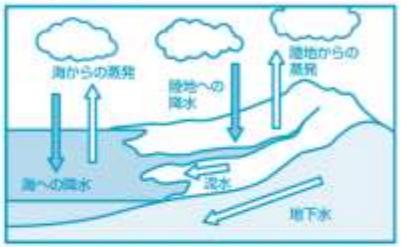
企　業　名	提案者（塾生）
㈱アクセスネット情報技研	板倉 健太朗
㈱石﨑蒲鉾	石﨑 一成
㈲石﨑製作所	石﨑 津世志
魚津交通㈱	谷川　悠
㈱かづみ野	経﨑　勝
㈲仁右衛門家	清河 哲士
西田哲也りんご園	西田 哲也
本田会計事務所	柿沢 泰人

水循環プロデュース！

魚津の「日常」にもっと「環境」を

特異な地形が生み出した魚津の水循環

水は、海から蒸発して雲となり、雲から雨や雪が降り、川となって海へ帰るという循環を繰り返しています。海岸から標高2400m以上に至るまで、直線距離でわずか25kmしかない急峻な地形をもつ魚津市では、この水の循環が一つのまちで簡潔しています。
魚津市は、特異な地形が生み出す水の循環と、それに育まれた豊かな自然に恵まれた地域であります。



環境問題を意識させるには？

何不自由なく生活できている現状があることで、魚津市民は地域環境に関する知識が乏しく、関心がとても薄いように感じます。近年では温暖化が進み降雪量が減り、川の水や地下水が干上がり、漁獲量が減少し私生活を取り巻く環境が確実に変化しつつあります。

事業プロデュースで「環境」を身近なものに

環境保全事業に取り組む事業者のマーケティング・広告面の補助！

- HP制作の知識を生かしターゲット・目的を明確にしたマーケティングのご提案。
- あらゆる媒体を駆使した宣伝広告を実施し、ターゲットが日常的に「環境」を意識できる仕組みづくり。

第1弾 魚津市への提案

既存のコンテンツを利用し、意識改革を目的としたプロデュース

魚津市では現在、魚津市民をターゲットとし「魚津の水循環」の広報活動として「水循環遺産の選定」、「水の学び舎ツアーの実施」、「魚津の水循環冊子の発行」を施行。しかし、いずれも市民には十分に伝わっているとは言い難いのが現状です。
そこで、今回は魚津市への提案とし、既存コンテンツを利用した施策を考えました。

施策 其の1 魚津の水循環冊子の絵本化プロジェクト

現在発行中の「魚津の水循環冊子」を絵本風に改変。
ターゲットを小中学生に絞り、要点のみを抜粋。幼い子供にも理解できるようイラスト重視のものにし、教育機関に配布。
難しいことはわからなくてもまずは水循環の意味を理解してもらう。

施策 其の2 「水の滑り台」看板プロジェクト

JR駅前に「水の滑り台」というコピーを記載した視認性の高い看板を多数設置。あえて「水循環」の内容は明記せず、疑問を持たせる。
疑問を持った人がWEBで「水の滑り台」というワードを検索すると、説明が記載されたサイトが検索エンジントップに表示される。
※「水の滑り台」とは急峻な魚津の河川の比喩

目指す成果と展開

ポータルサイトを設置し北陸新幹線開業に向け観光面においてもアプローチ

魚津市民をターゲットとした上記の施策により、市民の「水循環」に対する理解度の上昇が見込めます。その後の展開として水循環関連商品販売をメインとしたポータルサイトの設置を考えています。市民以外の観光客などをターゲットとし、広範囲での「水循環」の理解度向上を図ります。

アクセスネット情報技研 | ウェブコンサルティング ホームページ制作 システム開発
〒937-0041 富山県魚津市吉島 1005-5 Tel.0765-32-5777 Fax.0765-32-5778
www.e-sougyou.com

標高・海底の高低差4,000M。類希な環境に抱かれる「うおづの街」だからできる！

地魚200%利用で 造る 創る 作る

魚津でしかつくれない蒲鉾を

蒲鉾略史

超高級食品
1115年（900年前）の文献に宴会料理としての掲載有。
貴族の食物

→ 没個性化
冷凍すり身の開発により量産され、庶民的に。
誰もが買える時代

→ 二極化商品へ
食の多様化と魚食減少で縮小路線をたどっている。
手頃な美味しさ減少

→ 消滅？

蒲鉾の強みは？

・地域特化したものが可能
・低脂肪、高タンパク
・骨が無く消化が良い
・形状の自由度無限大
・食卓ゴミ減

現状の問題は？

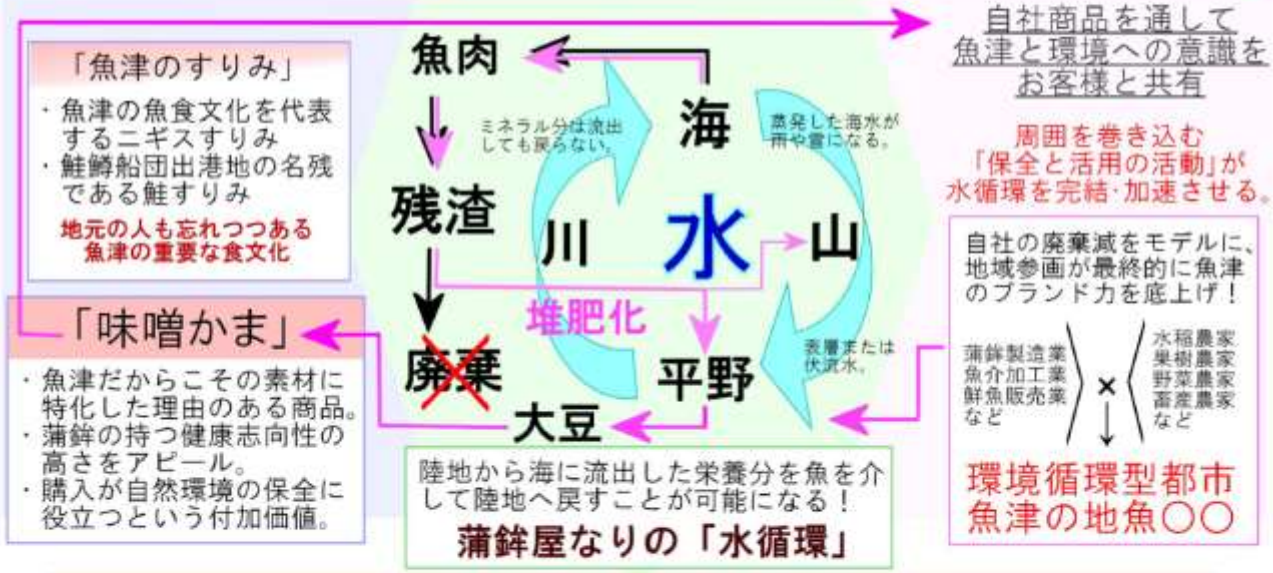
・冷凍すり身の依存度…大
・生魚は廃棄率が最大70%
・原料となる魚の量が不足
・各作業の職人不足

「味噌かま」から始める循環型商品の開発

蒲鉾を造る
長い歴史の中で育まれた魚津の蒲鉾を素材・品質・技法の各面から見つめ直し、新たな付加価値を与えて造り上げる。

循環を作る
今までは単に廃棄物となっていた残渣を資源・材料として捉えて、水循環の一部に取り込んでゆく。

「わ」を創る
食や文化、自然環境などへの関心を自社商品を通して共有する事で「輪」と「和」を創り上げる。



うまい蒲鉾が活力ある街と美しい自然環境をつくる

世界にひとつだけの街 魚津

(株)石崎蒲鉾 〒937-0865 魚津市上口2丁目18-15
tel 0765-22-0615 fax 0765-23-0506
mail:info@puti-kama.com
www.puti-kama.com

水を守るために森を守る

現状 当社は、金型メーカーとして、ITを駆使した3D加工に取り組んでおり、
当社の強みとして、県内外からたくさんの受注を受けてきました。

課題 日本の高度成長とともに製造業は右肩上がりで成長してきたが、
"失われた10年"が20年に届く所まできてしまっている。
大量生産が国内で行われなくなってきている今、
当社の本業である金型も縮小の一歩をたどり、先の見えない状況がある。

取組 メーカーでなくても、ものづくりができるよう、ITを使った新しいものづくりを検討、実践中。

なぜ金型メーカーが水を守るのか？

魚津という恵まれた環境で、当たり前にすごしている環境は、実は戦後の復興期
会えるかもわからない子孫のために先祖の方々が残してくれた贈り物でした。
その贈り物を次の世代へ受け継ぐのは、今の私たちの役目なのではという思いからです。

当社だけでは森を守ることができないので
新川森林組合様と連携した取り組みを検討していきたいと思います。

例えば、あなたが
二宮金次郎のように。
ということも検討中です。

魚津市の市街地や海底に湧き出る水は、
何年もの時間をかけて流れてきます。
いま、しておかないといけないことがあります。

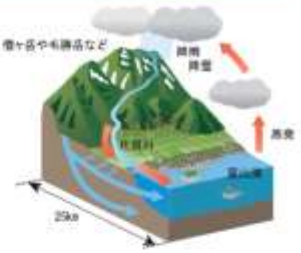
〒937-0814 富山県魚津市石垣1623
tel(0765)22-4601 fax(0765)22-2036

有限会社 石崎製作所

魚津交通の自給自“走”タクシー

世界的にも希有な地形

魚津の地形は標高2400m級の山々から海までの距離がわずか25kmという特異な地形から成り立っています。山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、豊かな自然の中で長い時間を掛けて地下水となり、また川から富山湾に注いでいます。この水循環により魚津市の生活用水が安定供給され、産業用水としても利用する事が可能になっております。従いまして、魚津の水循環を維持・保全する事は魚津市の生活を守る事に直結します。



当社の水循環への関わり

当社は、魚津にて一般旅客自動車運送事業（タクシー及びバス事業）を60年余り営業しております。市民の皆様の足代わりとして日々お客様にご利用頂いております。

これまで当社の環境対策としては、グリーン経営認証の取得やエコドライブ教育の受講（1回／年）を実施してきました。しかし三太郎塾での学びを通して、日々車輌を稼働させながらも魚津市の環境維持にもっと貢献ができないものかと考えました。

また昨今の政情不安や円安を要因とする燃料費の変動は、当社のサービスの安定供給に不安を与えかねません。魚津市の環境維持に協力しつつ、更にはこの課題を解決する方法はないか検討しました。そこで注目したのが太陽光発電と電気自動車の2つでした。

タクシー業界としての環境活動

「グリーン経営認証」取得の促進

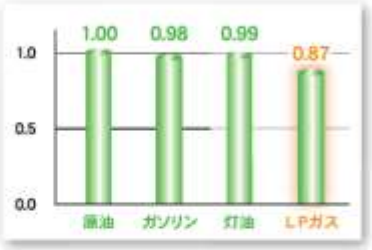
「グリーン経営認証」とは、グリーン経営推進マニュアルに基づく事業者の環境改善の努力を客観的に証明し公表することにより、取組み意欲を向上させ、認証事業者への社会・利用者からの理解と協力を得て、運輸業界における環境負荷の低減を実現させる制度です。本認証の取得を促進する事で、各事業者に対して環境負荷の少ない事業の運営を図っております。

デジタル式GPS-AVMシステムの導入促進

お客様から近距離にあるタクシーを配車するシステムの導入により効率的に配車をし、空車走行の削減を図っております。

環境負荷の少ない燃料を利用

LPガスはガソリンやディーゼルと比較して排気ガス中の大気汚染物質の排出を抑える事ができます。また石油の枯渇問題の観点からもLPガスの利用を促進しております。またハイブリッド化を実現したタクシー用LPガス業用自動車の開発の働きかけを国土交通省及び自動車各社へ実施、省エネ対策の推進を進めております。



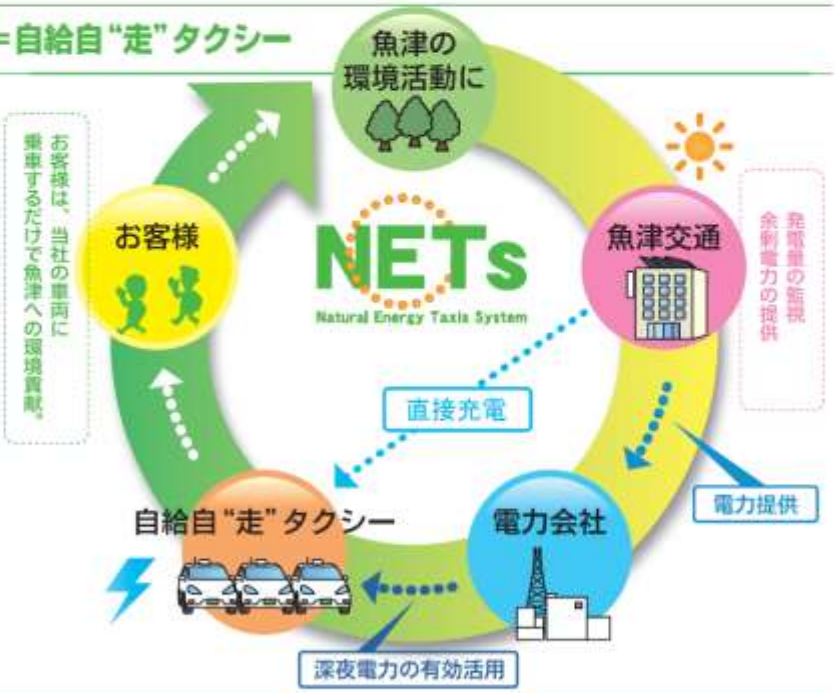
出典:日本LPガス協会
http://www.j-lpgas.gr.jp/hit/environment.html

太陽光発電+電気自動車＝自給自“走”タクシー

前述した通りタクシー車輌の燃料はLPガスが大半を占めております。LPガスは化石燃料の中でもCO_2排出量が少なく、燃焼時の排出ガスも極めて低く環境負荷の低減を実現した燃料です。しかし、タクシー車輌は毎日約100km以上も走行します。これにより少なくとも魚津の環境には影響を与えております。そこで環境に優しい燃料がないものか考えたのが太陽光発電と電気自動車を組み合わせたものでした。

当社に設置した太陽光発電により電力を産み出し、それを直接タクシー車輌の燃料として活用します。太陽光エネルギーを活用する事で車輌からの大気汚染物質の排出を無くし、魚津の環境維持に貢献します。また本タクシーを利用頂く事でお客様も直接魚津の環境維持に協力頂く事ができます。更に本タクシーで節約された燃費の一部を環境活動に寄付し、魚津の水循環の維持・保全に役立てます。

しかし本システムの問題点として電気自動車の走行距離が現行の車輌よりも低く、また充電スタンドの数が少ない点があります。それでも当社としては、魚津の水循環の維持をタクシー業界が率先して取組む事に意義があると考えております。



この事業のメリット

- ☑ 魚津の環境維持に貢献 → 環境教育・維持活動の促進
- ☑ 全国のタクシー事業者の先駆け → 環境配慮型タクシーの導入促進
- ☑ 魚津の観光資源のPRに協力 → 観光客の増加による魚津の更なる活性化

魚津の将来の為に

魚津は世界的に見ても特徴的な地形です。美味しい水が豊富に産み出され、山・川・海など自然を経由して恩恵を私たちは受けています。この自然からの恵みは市外・県外・国外から見ると魅力的なものに間違いありません。

人口の減少と高齢化、北陸新幹線の通過など問題はありますが、これからも魚津は発展していけます。なぜなら、自然と一緒に育んできた独自の文化があり、更には人々が集まる活気があるからです。素晴らしいコンテンツがあれば、発信手段や表現方法を工夫する事で魚津のファンを増やす事は必ず可能です。自然の恩恵を活かし、それを守り発展して行く。魚津はそれができる街です。

魚津交通株式会社
〒937-0805 富山県魚津市本江2860-2
TEL (0765) 22-0640 FAX (0765) 23-0640

脅威の竹パワー　抗酸化水の抽出

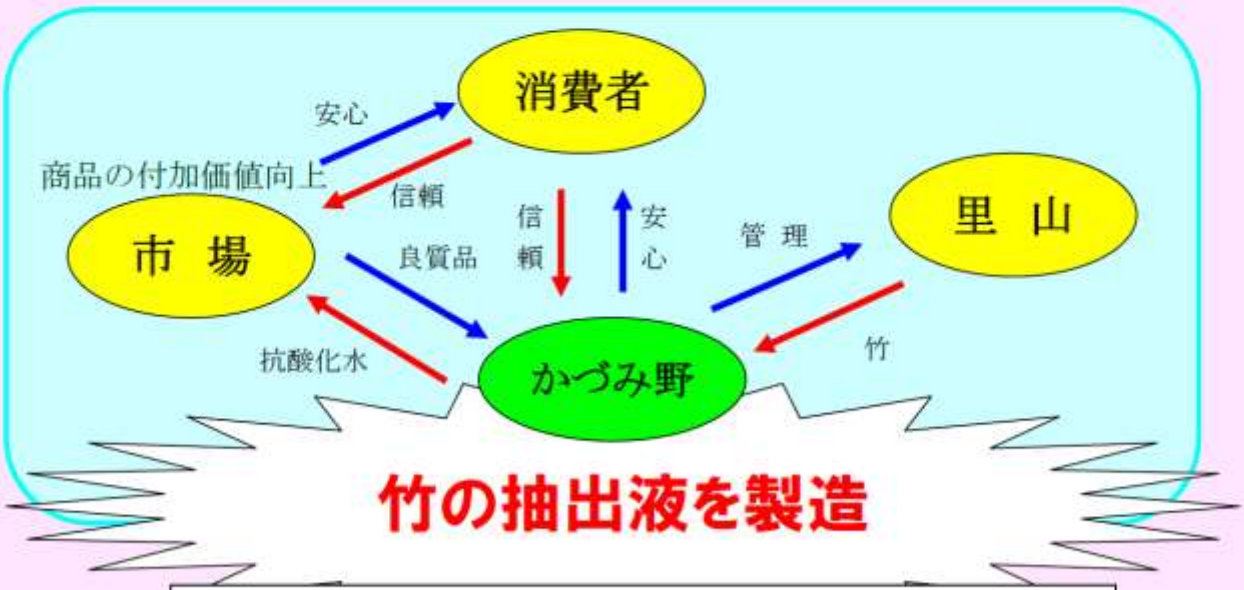
日本料理　かづみ野　　経崎　　勝

竹林・里山の荒廃

・竹の密生（曲がり・細身）・境界の破壊
・低木・下草の衰退
・斜面の崩落
・人間を含む共生動物の侵入阻止

料理人としての視点

・竹や笹は氷がない時代、魚の腐敗防止に利用
・竹の水筒に水を入れておくと腐らない
・押し寿司などの保存食の容器として利用



竹の抽出液を製造

こんな使い方もできます

・ご飯の劣化防止，カニ・煮干し・干物の酸化防止
・魚の賞味期間の延伸
・Ｏ１５７・鳥インフルエンザ・耐性菌の消毒
・手指の殺菌消毒（肌荒れなし），水虫の治療
・畑のナメクジ撃退，配管の消臭剤

北山鉱泉元祖　仁右衛門家（にえもんや）

泊って学ぶ「水の恵」

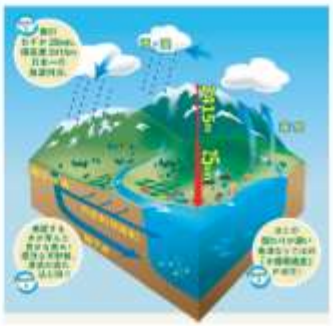
体にやさしいマタニティプラン

魚津の水循環とは・・・

魚津市は海岸から標高約2,400m以上の山岳地帯に至るまで、直線距離でわずか25Kmしかない、大変急峻な地形から成り立っていますが、山岳地帯に降り注いだ雨や雪は川や地下水となって扇状地を流れ、富山湾に注いでいます。そして、10~20年かけて「海底の湧き水」として、海底からじわじわと滲れ出しています。このように魚津の良質な水とは海底地下水が蒸発し雲となり、その雲が雨や雪となって大地に降り注ぎ、また私たちの元に戻ってきます。(参照:魚津市「魚津の水循環」など)

北山鉱泉の起こり

慶応2年、北山村の仁右衛門の妻が産後の肥立ちが悪く病に伏していた所、夢枕に薬師如来が現れ、薬師堂付近の湧水を飲ませ沸かしてお湯につからせなさい、と・・。
言われた通りにすると、みるみるうちに妻が元気を取り戻した。その噂はすぐに広まった、とさ・・。



現状・課題
古くより「子宝」や「安産」を願い来館されるお客様の存在。北山鉱泉の歴史上の背景を考え、現代人のもつ健康や環境への意識に配慮したサービスを考える。

コンセプト
魚津の水循環を伝え、地域の自然環境保全の一助になり、尚且つ当地を訪れるお客様の「願い」のお手伝いをする。

現状・課題＋コンセプト
現状・課題とコンセプトを合わせ・・

魚津の水循環伝える 新たな宿泊プランの提供!

宿泊プラン例

※夕食時に食材を魚津の水循環を紙芝居で説明。

戦略・ターゲット

妊婦さん+夫

安産を願う出産前の妊婦さんとその夫に焦点を絞る。出産前の記念旅行を楽しみつつ「安産祈願」が環境保全の一助となることをアピール。

この事業により見込める成果

1. 魚津の水循環を中心とした、環境及び観光のPRによる地域活性化
2. 北山鉱泉全体としての認知度向上、ブランド化
3. 自社収益の確保

りんごゼロ・エミッション

加積りんごとは

加積りんごの歴史は100年を超え、国内でも古い産地です。現在組合は約50軒で構成されています。収量は毎年約800tで全国の0.1%（富山県の約50%）に当たります。そのほとんどは庭先で販売され、ほとんど市場に出回らないことから**「幻のりんご」**と呼ぶ人もいます。**加積りんご**はリンゴ産地としては全国で2例目の地域団体商標（地域ブランド）に認定されており、広く知られるようになりました。また、組合員全員がエコファーマー認定を受けており、安心・安全なりんごづくりに取り組んでいます。

おいしさの秘密

温暖な気候

富山県はりんごの平地栽培の国内最南端といわれています。その温暖な気候は、他の産地より**約1か月長くりんごが樹上で熟す**ことを可能にしています。またそのことは**太陽の恵み**をたくさん受けることを可能にし、より糖度の高いりんごができる一因となっています。

魚津の水環境

魚津市は標高2000mを超える山系と深度1000mの富山湾に囲まれた、世界でも稀な環境を有しています。その環境は自治体内で**水循環**を完結させ、豊富な水を提供してくれます。その豊富な清流はりんごを大きく育ててくれます。

100年培われた栽培技術

加積りんごは100年を超える歴史を持ちます。私たちの先輩は、その間試行錯誤を重ね、加積の**環境に適した栽培技術**を確立してきました。加積りんごのおいしさは、恵まれた環境と環境に適した技術の上に成り立っています。

りんごの力

ヨーロッパでは
「りんごが赤くなると医者が青くなる」
という諺があるほど、古くからりんごの効能が知られていました。ここでは現代科学で解明された**りんごのちから**を紹介します。

リンゴポリフェノール

リンゴポリフェノールは筋力を増し、内臓脂肪を減らす働きがあることが、アサヒビールと日本体育大学大学院の中島寛之教授らの共同研究で明らかになっています。

アップルペクチン

アップルペクチンは富山大学医学部の研究により、①高い静菌作用、②善玉菌を増やし悪玉菌を排泄する作用、③腸内の活性酸素を消去する作用、④大腸がんの肝転移を防ぐ作用、などが確認されています。

その他ビタミンCの吸収を助ける作用やセシウムの排出効果などが確認されています。

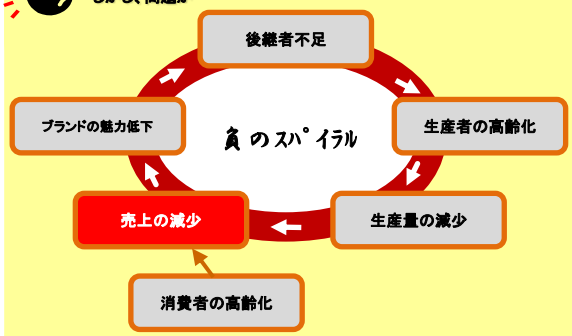
弊園のご紹介

西田りんご園は1933年に、祖父　西田喜一が吉島でりんご栽培を開始し、今年で80周年を迎えました。現在は、父・母・妻と私の4人でリンゴ生産、販売を行っています。生産品種は、ふじ・つがる・さんさ・秋映・紅玉・陽光・シナノスィート・シナノゴールド・ぐんま名月・あいかの香・こうたろうです。
りんごを作っていて、お客様に「おいしい」と言っていただけるのが最大の励みになります。一人でも多いお客様に「おいしい」と笑顔になっていただけるよう頑張ります。

加積りんごをもっと沢山の人に楽しんでもらいたい。

ブランドを守り、拡大する。

しかし、問題が・・・



負のスパイラルを解消するためには
加積りんごを**もっと魅力ある産業**にしなければいけない

売上 ＝ **客数** × **買上点数** × **一品単価**

客数UPのために　　今のご時世、UPは難しい

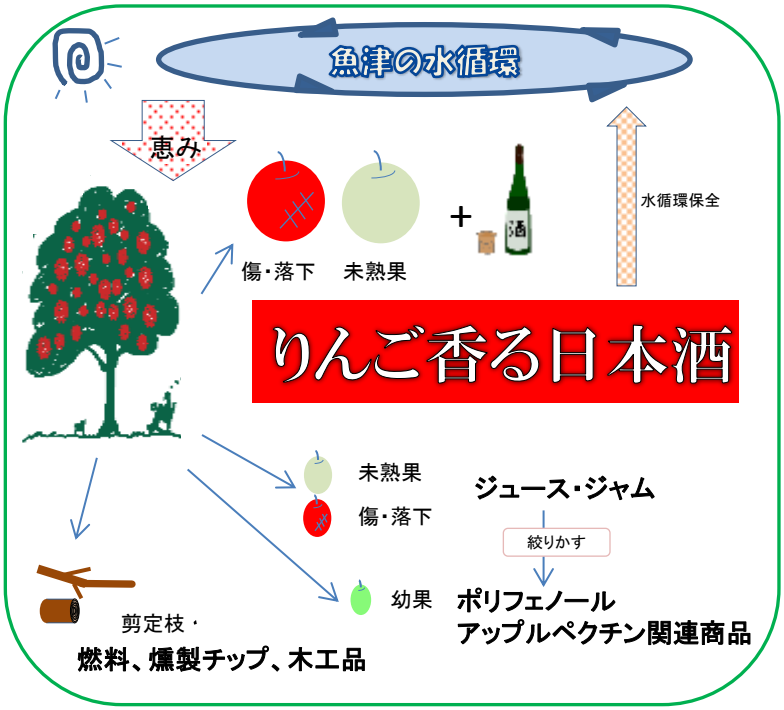
自信を持って売れるりんごを増やす
技術の向上
環境保全
栽培面積の拡大
長期目標

今まで廃棄していた
（もったいない）ものに
価値を与える

おいしいりんごをつくる

栽培技術の習得と向上

環境保全



効果

- ☑ 売上貢献
- ☑ 客数UP
- ☑ 水循環保全
- ☑ ブランド力UP
- ☑ 経営安定化
- ☑ CO_2削減

おかげさまで操業80年
西田りんご園
西田哲也

本 田 会 計 事 務 所
〒937-0041 富山県魚津市吉島1-12-5 TEL:0765-22-5737 FAX:0765-24-6500

『水 循 環 コ ン サ ル』～地域を元気に～

魅力ある魚津の水循環

魚津市は、海岸から標高約2,400m以上の山岳地帯に至るまで、わずか25kmしかない大変急峻な地形から成り立っています。そこから生み出される水は、飲用にも産業にも利用でき、市内全域の需要をｶﾊﾞｰできる豊富な水量があります。魚津市は、山、川、里、海とめぐる水循環が完結している世界まれにみる豊かな自然に恵まれた地域です。

魚津にある会計事務所として

魚津三太郎塾を通して、魚津の豊かな自然の恵みを多く学びました。当事務所が水循環をテーマとして出来ることは、地域経済を支えている地元企業様に、業務を通じて魚津の水循環の魅力を知っていただき、事業基盤強化のための新しいビジネスモデルやネットワークなどを構築するためのサポートを行うことです。

魚津の水循環が地域を元気にする！！

水循環コンサルとは

“魅力ある魚津の水循環”⇒“企業さまへコンサル”⇒“地域が元気に”⇒“水循環を未来へ繋げる”ためのコンサルタントです。

①セミナー、異業種交流会の開催

水循環に関するセミナー開催・懇親会。懇親会会場にてﾌﾞｰｽを設け、水循環商品のチラシ配布や販売促進会などを実施します。水循環の認知度を向上させ、同じ目的を持つ人同士のネットワーク化による新たな事業展開の可能性を図ります。

②ブログサイトによるお客様の店舗、商品などの情報発信サポート

水循環商品、季節限定商品など水循環への取り組み情報を掲載し、情報の共有・一元化を目指します。また、日本各地の理想循環への取り組みやコミュニティビジネス情報も発信します。

③きめ細やかな徹底した経営支援（事業計画書作成、税務相談、助成金相談）

「中小企業経営力強化支援法」による認定支援機関としての経営支援を行います。また、各種助成金や支援制度に関する情報を発信します。

④専門家相談ネットワークの構築

地元企業の水循環やエコに対する取組に対して、専門家による認定・アドバイスをうけるためのアソシエター役を行い、企業様のイメージアップ支援を行います。「魚津のおいしい水を掘る会社」「自然に近いインフラ整備をする土木会社」「水循環商品」　など

⑤理想循環への取り組み支援（企業の問題点を他の企業が活用する）

企業の経営活動からでるロス材料や産業廃棄物を別企業へ活用できないかを検討し、企業が抱えている問題（コスト）を解消することによる支援です。工事からでてくる不要物は、ある企業の必要なものかもしれません。また、企業も循環しないものなのか？あの店なくなるけど後継者は？事業承継などに関する税に対するコンサルタントを行い、総合的な相談窓口を設置する支援です。

企　業　名	提案者（塾生）
魚津水族館	不破 光大
魚津漁業協同組合	濱寻 一徳
魚津市農業協同組合	高縁　大
新川森林組合	原　敬志
㈲フラワーセンター舘	舘　哲也
㈲大野商店	大野 慎太郎
はせがわ珠算教室	長谷川 妙子
川原・吉島保育園	坂本 真也
アシステム税理士法人	深川 誠一郎
㈲コンポスト	島澤 達也

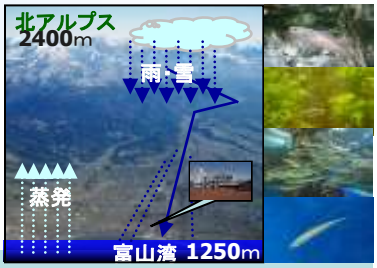
第3期

大人だって遊びたい！！

水族館サポーターになろう！

魚津水族館
学芸員　不破光大

水と魚の遊び場
魚津の水循環といえば・・・魚津水族館！



魚津の水循環と魚津水族館

高い山から深い海、「富山の高低差4000m」の縮図といえる魚津市は、水循環全体を見渡せる世界でも稀な地域です。

魚津水族館は富山の魚を見せて１世紀の歴史があります。見るだけでなく「水族館を使ってほしい」と思い、サポーター制度の導入を考えました。

課題

○水族館：富山の自然・生物を中心に展開　⇒　展示・教育普及だけでは伝わらない
⇨ **水族館活動に参加してほしい**

○市　民：富山の自然に興味・関心はある　⇒　ネイティブ：自然が当たり前すぎて価値に気付かない
ビ ジ タ ー：体験する場（きっかけ）が少ない

市民が求める水族館とは？

水族館サポーター結成！　⇒　サポーターになって魚津水族館をフル活用しよう！

魚津水族館流サポーター

- ボランティアではなく、自発的な支持者・サポーター
- **開かれた水族館**として、魚津水族館や職員を活用したい人の参加
- 自主的に活動する大人の**遊び場＆交流の場**
- **理想的な水族館**を実現する場（サポーターは来館者と水族館のかすがいに）

例

地域の○○博士

お母さんダイバー

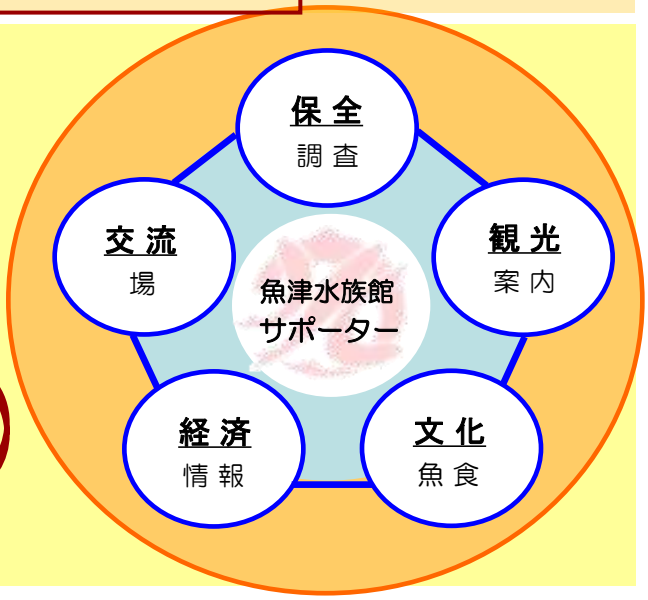
イベントの提案

先生も学べ

豊かな自然 ＆ 趣味や夢が材料！
水族館を「自然と遊び、学び、伝える」場に！
市民の力を発揮できる場として
見る水族館から市民がつくる水族館へ

サポーター導入後の将来像

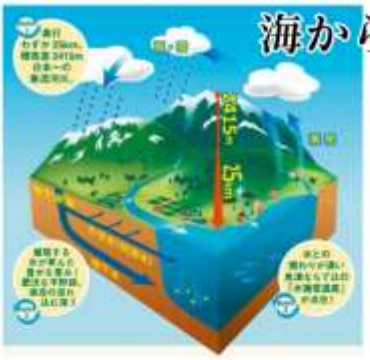
保全：野外**調査** ⇒ 情報集積 ⇒ 環境教育 ⇒ 郷土愛
交流：交流の拠点 ⇒ 人が集う**場** ⇒ 賑わう
観光：**案内**人増加 ⇒ リピーター増加 ⇒ 館活性化
経済：**情報**発信（遊ぶ・買う・見る）＋ 企業サポーター
文化：**魚食**文化体験　捕る ⇒ さばく ⇒ 食べる



目指すは市民参加型水族館！

地域活性化の拠点！

JF魚津　　濱 夛 一 徳



海からの恩恵に感謝し、この海を次世代へ伝える

「高低差４０００メートル」

魚津の沿岸には黒潮の支流である対馬暖流が流れ込み、国の特別天然記念物に指定されているホタルイカ群遊海面があります。僧ヶ岳・毛勝三山の山頂は北極圏に酷似した環境が存在します。海岸線から山岳地帯まで約25キロ未満でその特異な高低差や地形を有することから、様々な高山植物や多様な生物・海底生物を観察することが出来る環境を有しております。その中で「水産業」は、国民に良質のタンパク質を提供する使命を担っている産業であります。

魚津漁協は平成16年に国内初の**高度衛生管理型市場**を建設・導入し、平成25年に**優良衛生認定市場**の認定を受けました

●漁業は発泡箱など石油製品の利用率が高い。（発泡箱は2013年実績175,000箱／一日@580箱）

発泡箱の行く先は…

①二次利用→物入れ・土砂入れ
②回収→熱処理→固形→再生リサイクル
③放置→浮遊ゴミ～海洋汚染～越境汚染

↓

浮遊ゴミをなくし環境景観を良くしたい！

↓

提案できること
①環境・水循環を意識する
②石油製品から環境配慮型へ転換

↓

機能性（耐水）ダンボール箱導入

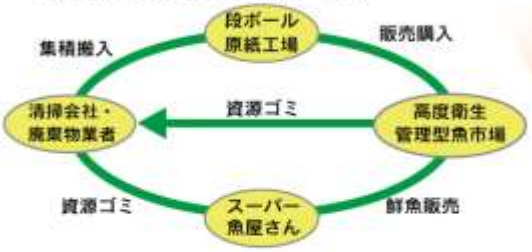
デメリット
段ボール箱の組み立て作業や使用時の煩雑さ
発泡箱販売や製氷販売が微減
発泡箱と段ボール箱の処理が煩雑になる

	メリット
漁業者	魚津の漁業者が環境への配慮を意識していることで他市場との差別化を図れる。
漁　協	段ボール利用は水産加工出荷業務での応用も可能であり企業価値の向上や存続への一助となる。
買受人	段ボール利用を支援協力することにより、魚津の水産業全体が「環境配慮」に取り組む姿勢をPRでき、買い受け企業の価値を高める。
市　民	環境景観の改善に繋がる取り組みとして、環境配慮志向の市民の関心を満たす事が出来る。

↓

共通の価値創造ＣＳＶ

■段ボールの特徴を生かし、
企業の得意分野を集めて連携・循環



■生産履歴のついた環境配慮型鮮魚出荷箱の開発

発泡箱 と 段ボール
適材適所で使い分ける
生産・利用・回収・運搬に係る企業名を印刷。
環境配慮をPRし企業価値の向上に利用。

試験導入への手順

協力してくれる漁業者に使い分けて頂き
鮮魚出荷（一日580箱の１割60箱目標）
↓
魚商人には使い勝手ヒアリング
↓
段ボール会社と材料・規格の調整
↓
試験運用

地域の展望　次世代連携を意識した
魚津の縮図として連携協定を結ぶ

今後の展開　NPO法人や協議会の立ち上げを目指す。

水循環保全型農業と認証制度

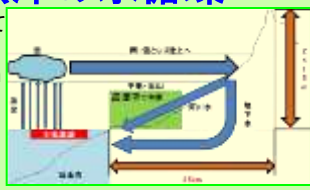
～水を守り、生命を守り、地域を守る農協～

魚津市農業協同組合
高縁　大

魚津の農業の現状と課題

・稲作中心の農業
　主力品種「**コシヒカリ**」の**品質の不安定化**
　産地評価の低下(食味で「特A」が取れない)
　限られた水資源の有効利用の問題
　(耕作放棄地の発生による**貯水機能の低下**)
　(**水管理の重要性の拡大**)
・果樹・野菜は産地としては小規模で販路が限定
・担い手不足・後継者問題
・**平成30年度の農政改革対応**→喫緊の課題
(米の生産調整見直しによる産地間競争激化の危険性)

世界の縮図・・・魚津の水循環



富山湾には赤道直結の対馬海流が流れています。水は蒸発、雨や雪となって山に降ります。毛勝三山山頂部の標高2,415mを緯度に換算すると北極圏に相当します。いわば赤道から北極までが僅か25kmに凝縮された環境が魚津なのです。
世界の縮図というべき環境の貴重な水が森林を経、里山・平地から富山湾へと循環しています。
里山や平地でこの循環の恵みを利用し、育まれているのが農業です。**農業は最大の利用者**であると同時に、**水田による貯水**や**景観の形成**によって、**水循環の一役**を担っています。

その対策として

他産地にない特色をもった有利販売⇒認証制度の創設

↳魚津の水循環

「地理的表示法」の成立等、社会からも地域ブランド化が求められている

魚津の水循環の保全・有効活用につながる**栽培方法を認証**し、**農産物にマークをつけて有利販売**
(認証案)
・「魚津の水循環」をテーマに作られた肥料を規定量以上散布して作られた農産物
・国の「環境保全型農業直接支払」において、水環境の保全・向上につながるとされた農業手法で作られた農産物
(C/N比10以上の堆肥散布・冬季湛水)
・その他各集落条件において有効とされる手法

先人たちの知恵・円筒分水槽

実践に向けて

農協内部での学習会・検討会の実施(26年10月以降)
→ 外部有識者を含めた認証機関の設置(27年10月頃)
→ (遅くとも29年4月には)**本格運用**
→ 目指す方向

農家への啓蒙活動
農家の実践活動

認証制度の運用(案)

①農家・生産団体から営農計画書の提出→内容を精査
②認証要件をクリアすると判断された場合、認証
③販売開始後も、栽培履歴およびGAPを利用し内容確認
④確認後に不備があった場合は認証取り消し
(ブランドの価値を維持・向上させるため)
⑤1回の認証期間を3年とし、更新時も審査を実施

①**有利販売による販路の確保・手取単価の上昇**
②農家所得の上昇で**後継者を育成**
③平成30年度の農政改革後も**生き残る「産地」**に

園芸生産の後継者
島澤耕平氏

地域農業を守るJAの青壮年部活動

副次的に**「魚津の農業」の価値がさらに向上**し、農産物の価値も向上するよい循環が生まれる。
消費者も確実に魚津の特色をもった農産物が入手できる。

山林所有者マッチング事業

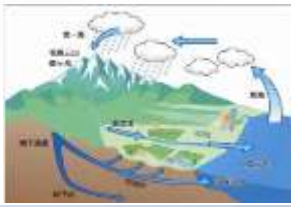
新川森林組合　原　敬志

魚津の水循環は世界の水循環

魚津市は海から山頂まで直線で約25kmの間に標高約2400mまで一気に駆け上がるとても急峻な地形になっていて、通常世界単位で行われている水の循環サイクルが一つの市で完結できるのはとても珍しい。

この中で暮らしている我々魚津市民は、特に水に関してとても多くの恩恵を受けている。川や地下水からは生活・農業・工業用水の資源として、さらに深く潜った地下水は20年の時をかけて栄養の豊富な海底湧水として海洋生態系の繁栄の基礎となっています。

この水資源は魚津市民の生活にとってとても重要な要素となっていて、山・川・地下水・海底湧水、このどれか一つでも欠けてしまうと我々の生活に多大な影響が出てしまいます。



間伐の重要性

近年環境問題への関心が高まっている中で、水の循環を考える際切っても切り離せないのが私たち森林組合が携わっている森林環境の保全ではないかと思います。

森林が整備されないまま放置されていると、育った木の枝が邪魔をして地面に光が届かなくなり、下草が生えず、地面がむき出しになり、水を蓄える力が失われ、雨が降ったとき土砂災害の原因にもなります。

森林整備の課題

森林組合が山を整備する際、山林所有者からの承諾をもらわないと整備することができません。

ここ数年、所有者の不明化により承諾をもらえず、森林整備ができない山林が増えてきています。

所有者不明化の原因として、近年の山村地域の過疎化により、家が絶えてしまったり、後継者が決まらないまま何代も相続登記がなされず不明になることがあります。

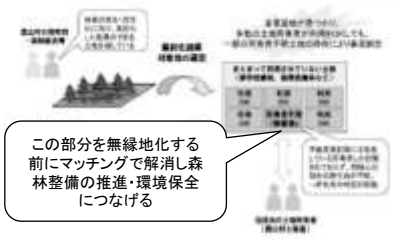
このような状況が続くと森林の整備が滞ってしまい、健全な山が維持できなくなってしまう恐れがあります。

課題解決に向けて

地域課題
森林整備による土砂災害の防止

企業課題
山林の無縁地化による
森林整備不可能地の増加防止

→ 山林所有者と所有希望者を当組合を通じてマッチングし、所有権を移すことによって、森林整備が進み魚津の水循環を守られる。



マッチングの流れ

現所有者

応募 / 提案

- ・境界の確定（**境界明確化事業**）
- ・山林価格の算定
- ・移転完了までの森林整備計画

森林組合

応募 / 提案

- ・現地にて状況・境界の確認
- ・山林価格の確認
- ・今後の森林整備計画の確認

→ **マッチング成立！！**

森林組合

- ・循環資源利用の契約
- ・森林整備計画の契約
- ・所有者移転の登記
  （組合にて司法書士に委託）

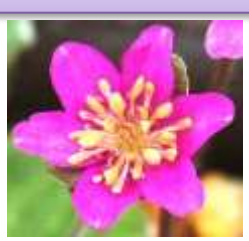
希望者 → **新所有者**

森林は魚津の水循環における血管の一部であり、
この事業を通じて人の循環を創り、森林環境を復活・保全します。

魚津で育った「TACHIブランド雪割草」の認知度の向上と販売拡大

魚津の水循環・・・標高・海底の高低差4000メートル。世界的にも類を見ない環境に抱かれた贅沢な生活環境。
→誰もがうらやむ魚津の街で、その商品をつくりたい。

「雪割草」とは・・・



・雪解けとともに咲く、多彩な色・形をもった里山の山野草。新潟、富山、石川に多く分布。
・かわいらしく、可憐であることから「春の妖精」とも呼ばれている。
・山野草の中では、栽培しやすく、現在、最も人気のある商品の一つ。
・15年前までは、自生地の雪割草の販売が主体。このため、乱獲や盗掘により、自生地は激減している。魚津市にも希少な自生地が残るのみ。
・現在は、種から育てた園芸種が流通の大半を占める。種をまいてから開花まで3年以上かかる。
◎花屋にお客さんの来店が一番少ない2月から3月に開花する植物のため、「雪割草」自体の認知度はまだまだ低い。

当社「雪割草」の強みは？

・魚津の自生地に近い里山で伏流水、海・山からの涼しい風など「魚津の水循環の中で育った健全な商品」。
・他社が持たない親花の交配により、当社のオリジナル性が出しやすい。
・種から育てた商品には、同じものが無く、すべてがオンリーワン商品。
・希少価値のあるマニア向けの花から、一般消費者向けの花が作り出せる。
・花を観賞するだけではなく、お客さん自らが、交配して、新しい花を創り出すという楽しみ方も最近増加。→親花の販売が増加。

現状と問題点は？

・一時的なブームは、落ち着き、マニアの購買量は低下している。
・商品単価は低下傾向にある。
・一般の購買層に「雪割草」自体の認知度が低い。まだ未知数の購買者が眠っている可能性がある。
・販売スタイル（ビニールポット）に特徴や工夫がなく、販売拡大に結び付いていない。

・現在でも、自生地から心無い採取や盗掘がある。
・里山に人の手が入らなくなり、植生が変化し、雪割草が消滅するかもしれない。

「TACHIブランド雪割草」を使った環境配慮型の商品開発

新商品

「魚津の妖精」

(11月末～発売予定)

・魚津の間伐材の端材を利用した「魚津の森の守り鉢」(新川森林組合と共同制作)に入れて販売。
・当社交配の園芸種のオリジナル雪割草のみに使用
・木の持つ温もり・おしゃれさを感じてもらい、新たな客層にアピールし、園芸品種の販売拡大

「里山を守る」→「魚津の水循環」を守る。
・盗掘や里山の手入れの遅れからの自生地の保全
・売り上げの一部は、里山の整備のために利用。

見込める成果：①商品のブランド化を確立、後継者を確保し技術を伝承、②魚津の環境のPRと配慮、③当社の売上げの増加

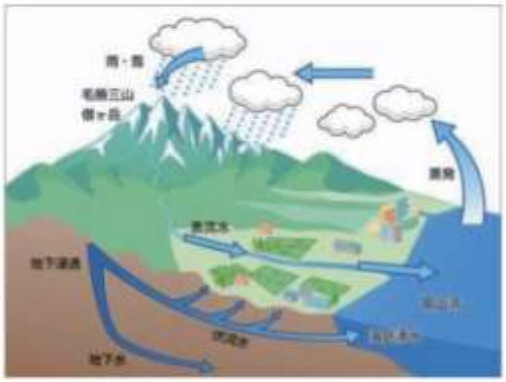
有限会社　フラワーセンター舘(舘さつき苑)　舘　哲也　　魚津市持光寺936-1　℡0765-22-5871

水循環 de 魚津を世界へ！！

魚津三太郎塾　3 期生
有限会社　大野商店　大野慎太郎

水循環とは…？

2,415 kmの高さから約 25 kmの距離で流れ落ちる急流河川。 魚津市は特殊な地形が生み出す水の循環とそれに育まれた豊かな自然に恵まれた地域です。
世界初の群生が発見されたオオクチホヤが見つかったのも富山湾！　蜃気楼が見える、 埋没林が残っていたことも魚津ならではのこの立地が起因します。



事業提案！！

～このすばらしい立地を生かした地域創造ビジネス～

≪テーマ≫水循環のすばらしさ＝他地域にはない付加価値を感じてもらい、
地域連携することによる新しいビジネスの創造 ・ コラボレーションと目指す。

水循環を軸にした事業を各方面で展開する事業者としての企業としての新しい展開をしていく。

取組み事例！！

新川森林組合 ×（株）河合楽器 × 水循環
にいかわの間伐材を全国の子供たちが使う楽器に！

森林組合⇒新川の間伐材を使用、 新川の木の宣伝、 周知。
河合楽器⇒手作り、 木材、 国産の需要。 地域との連携のメリット。
大野商店水循環事業部⇒双方の連携サポート、 双方に利益のあるようにコーディネートしていく。 10 個売れる毎に植樹する。

全国や県、 市との PR の連携サポート、 間伐材を使った楽器でのアーティストによる音楽イベントなどを今後実施予定。

※現在は集成材を使用している。 定価２９８００円。　間伐材と森林組合の技術提供で安価にでき、KOROGI 社などの世界企業との連携により、 水循環を知ってもらうきっかけも作れる。

目指す効果と展開

魚津の名前を世界に！！水循環を世界に！！

６月１日に東京都の浜松町で新事業展開の為、 大野商店の東京営業所をオープン！
これにより、 関東方面での水循環を起因としたコラボレーションビジネスを展開。
現在は魚津漁協からの魚やハマオカ海の幸を中心とした富山湾の干物を水循環を付加価値として関東近隣の料亭や居酒屋に卸している。
各方面の事業連携を水循環をひとつのテーマにし、 説明することで新しいビジネスとなる。
水循環を知ってもらい、 「魚津」 を世界中のヒトが 「知ってる！」 地名にすることが有限会社　大野商店の最終テーマです！！

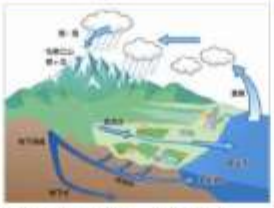
ママの元気は魚津の元気

お母さんの「あったらいいね！」で新しいそろばん教室

はせがわ珠算教室　長谷川妙子

魚津の水循環

魚津市は、海抜 0m から標高 3,000m 級の山々までが、奥行きわずか約 25km で、大変急峻な地形から成り立っており、この地形は海底まで続き、水深 1,000m まで達しています。
世界の縮図ともいえる魚津の水循環によっておいしい水、空気、米、魚、野菜など様々な恩恵を受けているのに、当たり前すぎて、そのことに気付かずに生活しています。



子どもたちに魚津の魅力を身近に感じてもらい、水循環に興味を持ち、水循環を守り、維持していく大切さを伝えていく必要があります。
魚津の**水循環を知る**こと。それが、**少子化対策**の一つとなればと考えます。

お母さんの悩み解決！

子供を習い事に通わせる事によって、大半の家庭では、母親の負担が増えます。
そんなお母さんの悩み事はというと･･･

そんな悩みを、そろばん教室が解決！！

提案その①　農業・漁業体験 ができるそろばん教室！

生物多様性への関心、理解 → 作った野菜で
食育、豊かな心の育成　　料理教室

新川森林組合の木工教室、尺の単位への変換計算問題
魚津水族館のお魚に関する計算問題　などなど

提案その②　英語が学べる そろばん教室！

・英語読みあげ算（数字の英語を聞き、そろばんで計算）をすることによって、ヒアリング力が身につく
・英語と組み合わせることで、習い事の時間と費用の負担が減る

提案その③　商店街 にそろばん教室！

・商店街の人が見守り隊となって、防犯面で安心
・送迎時についでに買い物もでき、時間の節約
・地域の方との情報交換の場、地域みんなで子育て！

その後の展開

・高齢者痴ほう予防、頭の体操教室（午前中の時間活用）
・赤ちゃんとママのリフレッシュ＆交流の場
・高齢者と子供達のふれあい遊び（お手玉や、読み聞かせなど）
・地元の高校生とのコミュニケーションの場（英語遊びなど）
・イクメンの料理教室＆子育てアドバイス
・習い事の時間がママのリフレッシュタイム（ネイル、マッサージなど）

今どき、そろばん？

昔から「読み 書き そろばん」この3つが教育の根本を成すものと言われてきました。
そろばんは、**計算力、集中力、忍耐力、直感力、記憶力、想像力、正確性、機敏性**が育つなど、とても優れた計算器具です。
機械に頼りすぎる現代では、人間が本来持っている能力が低下してしまいます。
そろばんの練習が、左脳・右脳をバランスよく発達させることが科学的に証明されています。

そろばんは、頭を鍛える**最強の習い事**です。
昔は、単なる計算能力の向上、資格の為のそろばんでしたが、
今は、右脳をはじめとする能力開発ツールとして認められつつあります。
珠算界も少子高齢化がすすみ、**少子化対策**をすることによって、
指導者の高齢化、後継者不足を解消していかなくてはいけません。

習い事の現状

子供に習わせたいランキング	
1位	英語・英会話
2位	水泳
3位	書道
4位	ピアノ
5位	そろばん
6位	学習塾
7位	ダンス
8位	リトミック
9位	サッカー
10位	空手

子供が習っているランキング	
1位	水泳
2位	ピアノ
3位	英語・英会話
4位	リトミック・体操
5位	学習塾
6位	書道
7位	サッカー
8位	ダンス
9位	その他スポーツ
10位	そろばん

ちなみに、ママがやってみたい習い事は？	
1位	英語
2位	ヨガ・ピラティス
3位	家庭料理
4位	お菓子
5位	パン

※ 全国の習い事に通う小学生以下の子供をもつママ 412 人に聞いた「ケイコとマナブ 子供の習い事アンケート2013」より

そろばんに習わせたい親が多いけれど、時間、費用、子供の興味関心などの面からか、実際習っているのは10位に下がっています。

将来像

・子供達が魚津の魅力を体感することにより、もっと魚津が元気になる
・商店街が**子育て支援の場**になればママも元気に、そして魚津がもっともっと元気になる
・商店街を中心に、子どもから高齢者まで世代を超えて、良好なコミュニティを形成できる**コンパクトなまち**づくり

魚津が大好きな子どもたち！＆大人も学び集まれる、

地域に開かれた寺子屋ほいくえん

川原保育園　坂本真也

川原保育園の特徴

1. お寺と一体の保育園（開園66年目・2014年現在）
2. 小規模（園児56人）→目が届く保育
3. 保育の内容（森のほいくえん、めだかのビオトープ、エコ活動）

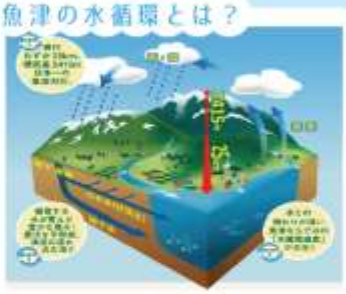
現状と課題

【園　児】園児は水族館や森には行っているが、魚津のいいところ、全てを体感しているわけではない。

【保護者】子育て、人間関係に悩んでいるお母さん方がいる。学ぶ場が少ない。

【地　域】地域の方たちが保育園に遊びに来られる機会が少ない。
（だんごまき、夏祭りバザーの、年に二回ほど）

魚津の水循環とは？



魚津市は、海抜0mから標高2400m以上の山岳地帯までが、奥行きわずか約25kmに収まる大変急峻な地形から成り立っています。この地形の中、山岳地域で降った雨や雪は、川や地下水となって扇状地を流れ、富山湾に注いでいます。そして海へ帰った水は、雲となって雨や雪となり、再び大地に降り注ぎます。魚津市では、このような水の循環システムがひとつのまちで完結し、その循環を一目で見渡せるという、「世界的にも稀な地形」をしています。このような特性を「魚津の水循環」と呼んでいます。魚津の海と大地をめぐる循環の中で育み出される水は、優れた水質と豊富な水量をもっています。そして、水はただ循環しているだけではありません。水は森を育み、森の栄養を運び、川や海・里に生きる様々な生物を養い、そして私たちの生活や産業を支えているのです。

そこで！　新たな2つの取り組みを考えました。

1. 魚津の名所を巡ります！

機動戦士かわはらっこ

～水循環など、魚津の良さを知っている子どもたちに～

〈見込める成果〉

- 子どもたちが、水循環を始め魚津の事を良いところを知り、魚津の事が好きになる。魚津の水循環を守っていこうと思う。大人になっても、魚津に住みたいと思える子どもが増える。
- 活動をFacebookやブログ等で発信することにより、それを見た人が、魚津の良さや水循環を知る。より魚津を好きになるきっかけとなる。
- このような活動をしている保育園として認知され、差別化より選ばれる保育園に。

2. 大人も学ぶ！集まる！

地域に開かれた寺子屋ほいくえん

①子育て、より良い人間関係を築く、などの講座を定期開催

②保護者はもちろん、地域の人も参加できるお茶会、座談会を定期開催

〈見込める成果〉

- 子育てや人間関係を学ぶ事で、子どもや周りの人との、より良い関わり、人間関係ができる。
- 大人の学び場、集いの場となる。
- 地域の方が集まれる場となる。

魚津の伝承されるべき雇用や技術を守る

アシステム税理士法人

うおづ会社バトンタッチ支援センター

魚津に会社が無くなる

近年、全国で地方事業所の廃業・倒産が拡大しており、日本全体では過去10年で事業者数は100万件減少してします。

魚津も例外ではなく。過去5年間で、魚津の廃業数は開業数の2.7倍！全体の13%にあたる会社が、この5年間に廃業しました。

失われる雇用と技術

地方の中小企業の後継者不足は維持・伝承されるべき雇用や技術が途絶えてしまうという重大な危機に直面してします。

魚津の製造業は過去5年で2,000人近い雇用が失われました。過去20年では…水産業▲65%減、農家数▲43%減、商業▲18%減とあらゆる業界で事業所数が減少。

会計事務所業界に忍び寄る危機

関与先企業の経営者の高齢化が進み後継者問題を抱えるお客様の状況は年々深刻化しています。

数年後には、都市部から低価格事務所や大型事務所が魚津に進出してくることが想定されます。

経営者の後継者不足

地方中小企業では経営者の高齢化、身内の後継者不足が進んでいます。

後継者不在の中小企業数は全国39万社のうち26万社と67%の会社がこの問題を抱えています。また、先代経営者と後継者との関係も年々変化しています。

かつては、親族内承継が9割以上を占めていたのに対して、近年では親族内承継が6割まで減少してきており、親族内での後継者の確保が困難になってきています。

メイドイン魚津が無くなる

魚津の生活循環が変わると水循環が崩壊

魚津で働く人がいなくなる…

魚津の産業・技術がなくなる…

魚津に漁師がいなくなる…

魚津のお米が食べられなくなる…

魚津の森がなくなる…

魚津の会計事務所が魚津の伝承されるべき産業や技術を守ることは、魚津水循環を守ることにつながると思う

うおづの会社を守るために！

お悩みじゃないですか？

そろそろ引退したいけど、ワシが辞めたら、会社はどうなるの？

◆後継者がいない。誰に任せたらいいのか
◆従業員のためにも、事業は継続させたい
◆借入金が残っているが、このまま事業を引渡せるのか
◆第三者の支援を受けて、会社のノウハウを活かしたい
◆将来の後継者となり得る人材を探したい

後継者がいないんじゃ…

解決できないと思い込む前に！

事業承継の5つ選択肢

- 親族内継承
- 従業員からの登用
- 外部からの雇入れ
- M&A
- 水循環を活用した新事業の展開

魚津の会社が元気になるヒントが水循環にあります。環境意識の高まりや技術革新から水利事業の可能性が広がり見せています。

ご相談ください

水循環を活用した新事業展開が、バトンタッチの一歩

魚津水循環を学んだ魚津三太郎塾の卒業者3名が、あなたの会社と水循環の結びつきを見つけ出し、あなたの会社にあった水循環へのアプローチをサポートします。

【事例：ある飲食店のお話】

後継者の息子さんが水循環メニューを考案して"食"を通してプロジェクトを開始。会社はますます元気になってます！

うおづの未来のために！

魚津の「雇用の場」を守る

魚津の会社が元気になり、魚津で働く人が、魚津で生活する環境を守ることは、水環境を支えている。
水循環は生活循環の象徴である。

魚津の「地域産業」を守る

魚津の地域でる水循環を生かした新たな産業創出は、地域性をよく知る地域密着型のサポートが不可欠である。そして、事業承継もまたじっくり腰を据えて相談できるサポートが不可欠である。

「道の駅」誘致を提唱する　高低差　4,000m　Story

魚津三太郎塾　三期生　　島澤　達也

地域の課題と今後へ向けて

間近に迫った新幹線開業や高規格道路の開通を迎え、市内の観光関連事業の充実が必要。今後増加する交流人口へ、

食・人・環境をPRし魅力ある新川の情報を発信する「道の駅」 誘致を計画します。

魚津市は900室以上の宿泊施設を備え、駅前の夜型飲食店も充実。拠点型観光や団体から個、ドライブスタイルなどの観光スタイルの変化に対応し,休憩スペースや又地域の情報発信施設としての「道の駅」の機能が今後のニーズに応えるでしょう。

当社はこれまで、商業施設の設計施工を手がけ、様々な施設の運営についてレイアウトやデザイン、施設の使い勝手などの面でご提案させていただきました。また近年、飲食店及び菓子販売業を営み、商品の特性や顧客満足度の充実等といった施設の実質的な運営面に関しても実績を積み上げて来ました。

魚津三太郎塾で学んだ、**CSV**（企業価値と社会的価値の共存）そして**高低差4,000mがもたらす水循環**　が生み出す価値（環境・素材・文化）を「道の駅」開業に向けて考えていきます。

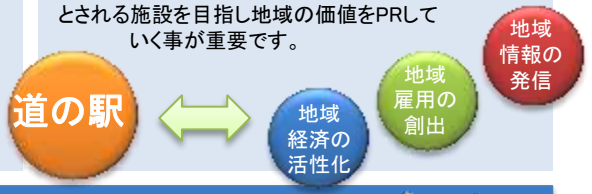
「道の駅」　とは

全国で1,004駅全体で3500億円の売上（2,013年）

道の駅には

①道路利用者の休憩スペース
②地域の情報発信施設
③地域連携

といった役割があります。道路管理者によって設置され運営面においても国道への誘導サイン整備や、ネット等による情報発信といったサポートが受けられます。しかし施設の性格から観光のみにスポットを与え、継続が難しい場合もあります。今後は地域に必要とされる施設を目指し地域の価値をPRしていく事が重要です。



ローカルビジネスプラットフォームから運営主体へ

道の駅設置手順

- **構想**
  - 行政　地域振興策の作成
  - 道路管理者　休憩スペースの整備計画
- **計画**
  - 整備計画の協定
  - 道の駅の整備計画策定
- **整備**
  - 各施設の整備
  - 指定管理者の設置
- **登録**
  - 道の駅としての登録
  - 開業

ハードが先行!! 運営の継続が難しい…

提唱から構想そして運営主体となる事が大切!!

運営に大切なソフトの充実を図り、提唱の実現性を高め誘致を進める実質的な主体となる、**ローカルビジネスプラットフォーム**を作ります。

ここで様々なワークショップを重ね、今後求められる「道の駅」を学びます。道の駅のあるべき姿を学び、提唱し、誘致に主体的に取り組みます。誘致後は、その運営に携わり、地域からの情報発信に努めます。

しかし農産物、海産物の直売所だけでは、観光関連ビジネスになりにくく、観光施設としての利用は、観光地としての集客が貧弱で通年の営業が難しい事が予想されます。地域の住民に愛され道路利用者にも利用しやすく観光関連ビジネスに結びつく施設を目指していかなければいけないでしょう。

環境に配慮し地域との価値観を共有する「道の駅」を目指そう

再生エネルギーを用いた施設作り

生産者との連携 地産地消

サスティナブルツーリズム

企　業　名	提案者（塾生）
日本海電業㈱	若林 健嗣
㈲大村造園	大村 充
（一財）魚津市施設管理公社	山本 大年
㈲源七	松原 祥子
ひえばた園	稗苗 良太
宮本みそ店	宮本 晃裕
㈲ミールサービス	芦﨑 里香

第4期

日本海電業　×　魚津の水循環

三太郎塾発地方創生　魚と水の町魚津を作る「新しい公共」

日本海電業（株）とは？

魚津で創業して 60 年、
電気・通信のインフラを守る
仕事をしています。

- 防災通信
- ダム管理
- 水防データ
- 災害対応
- 電気工事

建設業であり
常に「公共」を
意識しながら
仕事をしてきました。
これからも
地元のために
働きたい！

「だがしかし」

「公共」「建設」といえば世間の目は…

- あまり面白い仕事じゃなさそう…
- ハコモノ！道路！またムダに税金を使うのか？
- 生活が便利になったら、もうする事ないでしょ？
- 「環境を大切に」というけど、工事で壊した自然はそのままじゃない！おかしくない？

「地方消滅」進む人口減少、どうやって人を残す？

- 就職は都会でしたいな～いろんな仕事あるし？
- 新幹線も県部に行った。魚津に住む必然性は？
- 子どもと思い出を作れる場所がほしいわ。この子も成長したら魚津を出るかも…

そこで考えた。

「地方消滅」課題に対応する「新しい公共」の役割とは？

- ●「いま」の課題に対応した仕事
- ●自ら「変化」を作る（面白み）
- ○税収だけに頼らず、民間が力を発揮し、地域全体の収入を伸ばす土台を作る事業
- ★自然破壊（自然と人の対立）から持続可能な、自然との共生を築く仕事へ！

そこで　水循環（みずじゅんかん）　に注目

魚津の水循環とは…

魚津市は、海抜 0 mから標高 2400 m以上の山岳地帯までが、直行きわずか約 25 kmに収まる大変急峻な地形から成り立っています。この地形は海中まで続き、水深 1000 mにまで達します。この高低差地形の中を、表流水（片貝川、布施川、鴨川、角川、早月川）や伏流水（地下水）といったさまざまな[illegible]に流れ出ています。富山湾の海水は、蒸発して豊となり、…

STOP

つまり、水循環の「価値」とは何なのか。
私たちは本当にそれを知っているのだろうか？

もっと直感的に、魚津にいる誰もが水循環の恩恵を感じるようにできないか？

身近に水循環に触れられるはずの「川」に目を向けてみると…

写真：魚津水族館

- 濁水（干上がり）
- 土砂堆積
- 植生の貧弱化
- …etc

開発による環境悪化により、
生態系の持続性が失われている。
川は「生き物」である。魚津の川は、
このまま死んでゆくかも知れない…

川の生態系の乱れは、山や海にも影響し、やがて私たちの暮らしにも影響する。

2014年「生物多様性うおづ戦略」が策定。生物多様性は、自然のためだけでなく、私たち人間のためにも守られる必要がある。

「治水」「用水」「電源開発」…人間社会の「公共」のために壊してきた川の自然を人と自然の共生型に直すことこそ「新しい公共」。取り組む意義がある！

（実施イメージ）

STEP1

市営水力発電所の建設

「水循環」のエネルギーを活用する！

農業用水路や放水路で新規に「水力発電」を実施すれば売電収益で、年間数百万～一千万円以上の収益が見込める。

ここから、建設投資や維持費を除いた額を次のステップに活用する。

STEP2

自然共生型川づくり

本来の山川と生物の関係を取り戻す！

川本来の生態系について調査し、これを取り戻す「手伝い」（多自然化工）工事を実施する。川を回復することによって、里山、田園、海岸と、水循環にかかわる他の自然環境にも、いい影響が出ると期待される。

STEP3

訪れたい町、帰りたい古里、「魚と水の町・魚津」の再生！

最終目標は「地方創生」

生態系豊かな川や自然を取り戻すことによって、市民が身近に「魚津の水循環」の価値に親しみ、故郷への誇りを持つことができる。

ここに住みたい、この町の良さを残していきたいと住民が思えるようになり、意識ある若者をとどめることができる。

また、柿の木剛と宿泊施設、水族館との連動などで、「自然・飲食・学術」が揃う個性ある「魚と水の町・魚津」としてブランド化し、FANを増やし、町の活性化につなげる！

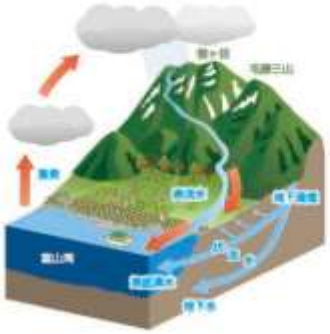
魚津三太郎塾 4 期生　若林健嗣　平成 27 年 10 月 30 日　第 1 版

庭園から水循環を守る。

間伐材を有効活用

竹 bamboo fence 垣

POINT.1
魚津が守らなければならない水循環。



魚津市は、海岸から標高2,400m以上の山岳地帯に至るまでの直線距離がわずか25kmしかない急峻な地形から成り立っており、毛勝三山などの山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、地下水や川となって富山湾に注いでいます。この水循環によって生まれる水は、飲用や産業用にも利用され、魚津市の水道水は100%地下水でまかなうことができています。

この貴重な水循環を残していくためには、海の環境保全はもちろんのこと、山の保全も重要と思われます。そこで当社は、山林の間伐材に着目しました。

POINT.2
山林を守るための間伐。

山林を維持していくための間伐作業によって排出された間伐材。これを竹垣に使用することで環境にもやさしく、景観の良い竹垣が生まれました。

庭園に生まれる環境貢献システム

POINT.3
造園業界としての課題。

近年の公共工事減少に伴い、業界全体の売り上げが減少傾向にあります。そして民間工事への転換が求められています。しかしながら民間のお客様にもコスト面で抑えられているのが現状です。コストを抑えるためにメーカー製の既製品をオススメしてしまいます。そして既製品では、どこの庭園も同じ庭になってしまい、造園業者の作家性が失われてしまいます。

そこで当社はオリジナル製品の製造・販売をし、オリジナルの竹垣をお客様にご提案していきます。そして当社だけがご提案できる庭園の実現が可能になります。

POINT.4
自社で乾燥・加工。

間伐材を自社で乾燥・加工することによってコスト面でもメーカー社製品と比べて安価で仕上がります。

POINT.5
心と環境の癒し。

竹垣のある庭園は心を癒してくれます。さらに当社の間伐材製の竹垣は環境保全に貢献できる最良の製品となっております。

有限会社
大村造園
〒937-0807 富山県魚津市大光寺1210
TEL 0765-22-2661
HP http://oomurazouen.com/
E-mail oomurazouen@yahoo.co.jp

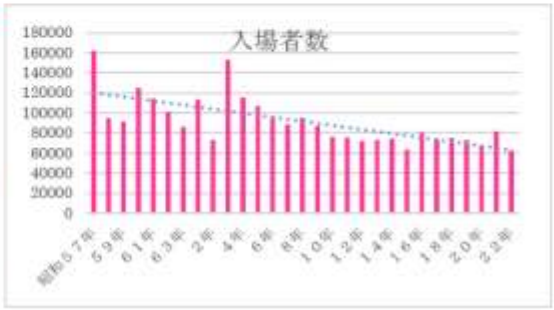
地域の子供を育むミラージュランド

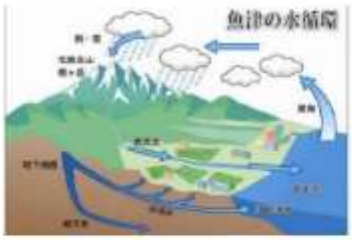
～遊んで支える魚津の水循環～

ミラ～ジュランド
（一財）魚津市施設管理公社　山本大年

現状と課題

魚津水族館の移設に伴い、魚津総合公園が整備されることとなり、総合公園の一施設として昭和５７年にミラージュランドは開園しています。開園当初は、年間１０万人以上（ピーク時１６万人以上）の来園者がありましたが、少子高齢化や、レジャーの多様化により入園者の減少があり現在では年間約７万人と減少している。また、屋外施設である為、天候による影響が大きい、閑散期には人が来ない、有料の設備が多いため地域の住民が気軽に足を運んでいない等の問題も入園者減少の要因と考えられます。また、指定管理者制度により魚津市より施設を受託していますが、長期に渡る施設の維持管理及び運営をできる保証が無い、労働条件が不安定な為、正規職員の雇用、人材の育成が困難等の問題点が挙げられます。





魚津の水循環とは？

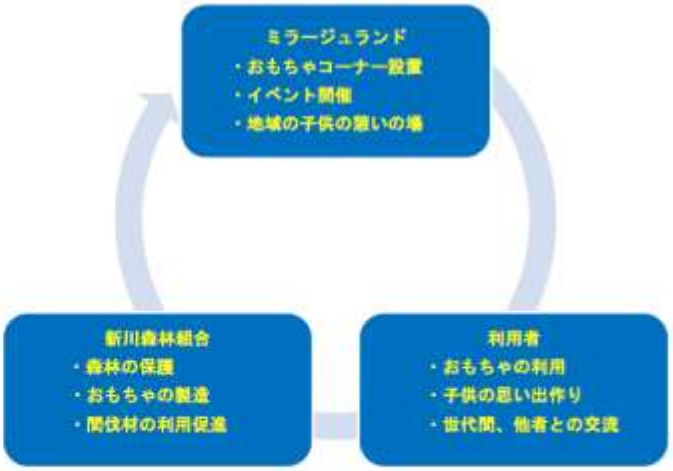
世界の縮図と言える魚津の水循環とは、水深１，０００ｍの海底から標高２，４００ｍ以上の山々がわずか２５ｋｍ に収まる大変急峻な地形であり、水の循環サイクルが一つの市で完結している世界でも稀な地域です。その水循環システムのおかげで私たちは、豊富な水資源や豊かな海産物等、様々な恩恵を受けており、また、生態系サービスも支えているので今後も魚津の水循環を守っていかなければなりません。そこで、水循環の中でも重要な役割を担う山林を保全する為の間伐作業によって生まれる間伐材を活用しようと思います。

魚津の水循環を支える間伐材おもちゃコーナー

地域資源である、にいかわの間伐材を用いたおもちゃ（積み木、パズル等）を新川森林組合に制作、協力して頂き、当施設に間伐材おもちゃコーナーを設置し来園者に楽しんでもらいながら魚津の水循環を支える。遊園地の遊具のほとんどが有料となっており地域の住民が気軽に来園していない状況となっているので、無料のコーナーとして設置する事により気軽に足を運べ、間伐材のおもちゃを通して世代間交流、他者との交流を生む事ができ、さらには、地域の子供達の憩いの場として思い出に残る場所となるようにしていきます。

また、工作イベントの開催や、新しいおもちゃ又は遊具の導入等、間伐材の利用を促進する事により魚津の水循環を維持します。

※イメージ画像（富山県ＨＰより転用）
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1603/kj00009298.html



この事業により見込める効果

- ✔魚津の水循環の維持及び周知に貢献
- ✔世代間、他者との交流の場
- ✔地域の子供たちを育てる場
- ✔地域住民が気軽に利用できる場所の提供による来園者増
- ✔来園者増により自社の収益増

将来像

今後、ますます進む少子高齢化や、人口の減少、環境の悪化等様々な問題がありますが、地域の資源を地域のみんなで守り、活用し、魚津がより発展する為の一員になればと思います。みんなが必要とする魚津、なくてはならない魚津を目標に、地域社会との連携を目指します。

輪で守る水循環　～うおづって“ちょうどいい”ないけ～

（有）源七　松原祥子

源七のこだわり

原料にこだわり・・・
餅米は富山県産の1等米を100%使用しています。
文化にこだわり・・・
郷土料理の（芋かいもち）や、餅文化の伝統を守り、さらに改良しながら提供しています。

魚津の水循環って？

2400M級の山と水深1000Mの海で合わせて高低差3400Mの特異な地形。降雪が多く、常に水が豊富。森からの栄養を豊富に含んだ水は、急流な川で新鮮なまま海へ流れていて、その恩恵を受ける多数の海産物、農産物、生命が育つ。そしてこの水は世界でもトップクラスの名水であるにもかかわらず、知名度が低い。

強みは　豊富で上質な水の恵みを受け、一年を通してさまざまな産物が生まれる環境がある。
ALL魚津産商品の産物を取り込んだ開発・販売ができる。

課題は　魚津産のもち米生産量、消費量が年々減っている。
お菓子ニーズの変化　お餅文化が伝承される？

1番おいしいお水の街

お餅文化を伝承したい

あんしんして食せる！おいしくてワクワクする商品の開発・販売！

その1・ちょっとオシャレで新しい‘OMOCHI SWEETS‘
その2・季節の産物で‘OYASAI MOCHI‘
その3・ケータリングCARで伝えながら**対面販売**

生産現場体感
エコツーリズム

OMOCHI SWEETS

素材への興味

生産者（米、野菜）

源七

消費者（食の安全）

原料

商品

季節の野菜・もち米（JAうおづ協力）
「OMOCHI SWEETS」を創るにあたり品質検査に持ち込まれた1等品質の新大正米を三軒から仕入れ、1番相性の良かった米を厳選し造りました。

広めて…特別価値の伝わる商品を統一ブランド **Clear** に

認定

Clear＝水がクリア、基準をクリア、次世代の将来をクリアに
水は100%魚津の水を使うこと。原料の60%以上を魚津の産物とすることが条件で源七にて認定後シール贈呈。
地域全体で盛り上げ、美味しいものいっぱいの街といったイメージを発信

自然の恵み ＋ トクベツの美味しさ ＝ 新商品（ビジネス）で伝統と自然の貴重さを次世代に伝える

こどもの頃に食べたおいしいはずっと心に残る味
食を通じて人と人の輪がつながり魚津の自然・・・世界の自然を守る・・・

GOZZUOプロジェクト

2015.10.30

現状

- お米を中心とした自然栽培農家
- 魚津市の里山 稗畠・鉢地区で生産。無農薬、無肥料、はさがけ天日干しでは富山県唯一の米専業農家
- 全国に顧客を開拓 自ら直売

課題

- すべての面積を無農薬栽培にするのは人件費がかかりすぎる
- 生産コストと環境負荷の両立

コンセプト

- 特異な水循環を理解し伝える
- 持続可能な農業への移行
- 地域環境と経済への貢献

うおづの水環境とひえばた園との関係

魚津市は海岸から山岳地帯に至るまで直線距離で約25kmしかない大変急峻な地形から成り立っています。この地形は海中まで続き水深 1,000m まで達します。
この**高低差 3,400m**を表流水(片貝川・早月川・角川など)、伏流水と地下水といった経路で水が流れ富山湾へ流れ出た水は蒸発して雲となり雪や雨となって毛勝三山や僧ヶ岳に降り注ぎます。

魚津の**海と大地を巡る循環**のなかで作りだされる水は優れた水質と豊富な水量をもち山や里、川、海の様々な場所で生きる生物を育み、市民の生活や産業を支えています。
このような水循環が一つのまちで完結しておりまたその循環を一目で見渡せる特異な地形は**世界的にも稀**でこの循環の中で私たちの生活が成り立っています。

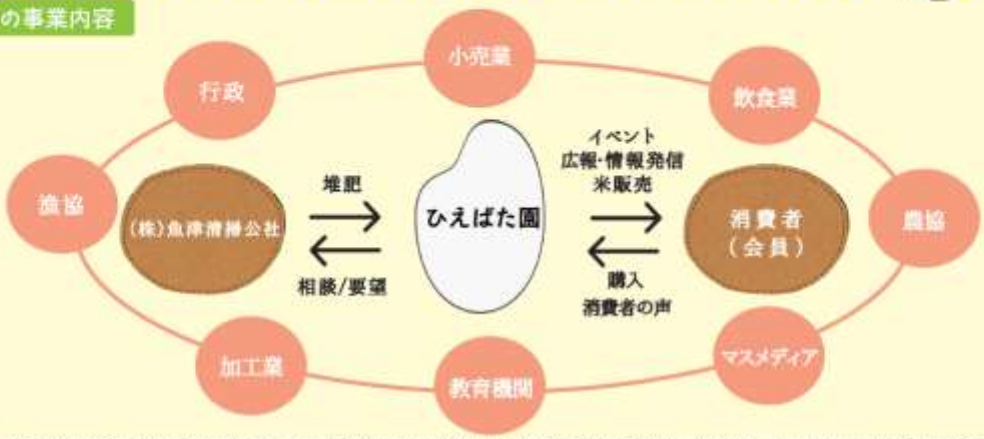
ひえばた園はこのような水循環システムの中で山岳地帯と平野部との中間地域に位置し山岳地帯に降り注いだミネラル豊富な雪や雨水を最初に農業用水として利用し米づくりをしています。用水路は**イワナやヤマメが泳ぐほどの清流**で美味しい米づくりの一端を担っています。また田んぼは一時的に雨水を蓄える**ダムの役割**をしています。水の急激な流失を防ぎ、河川の流れを安定させ、下流での洪水や周辺での土砂崩れをい防いでいます。

地域密着型の有機栽培米を
低価格でブランド化
消費者の食と地域に対する意識改革

地元のこだわりのお米が買えない！
環境やお米についてもっと知りたい！
こどものアレルギーが心配…

STOP！！
過剰な化学肥料と農薬
LET'S！！
循環型の地産地消

GOZZUOの事業内容



生産
肥料は魚津清掃公社の野菜クズとカニがら堆肥、間伐材と果樹剪定枝堆肥の２種類を使用しとことん地域循環にこだわる。
農薬は初期除草剤のみの使用で通常の約９割減。生産コストと共に環境負荷を軽減。
安全・高品質な堆肥と減農薬で、水と大地を守り消費者の未来の食卓を支える。

販売
年間を通して安定供給するため年間予約販売を実施。決済は１回払いまたは２回分割とし農家のキャッシュフローを支援。
市内飲食店と連携して「GOZZUO」を使ったメニューの開発。
販売は直売だけでなく、市内のスーパーや直売所、催事、イベント出店で市民の皆さまに、より身近なものにする。

広報
プロジェクトを応援する「GOZZUO会員」を募集。
田んぼと食卓をより身近にするために、会員向けにはよりコアな情報を発信。メルマガやブログにて生育状況や日々の農作業の共有。
会員間のコミュニティを充実させるために勉強会、農作業体験、収穫祭などの各種イベントの積極的に開催。
また、日々の食卓の情報共有の場としてＳＮＳを利用。会員自らが「GOZZUO」ブランドを育てる仕組みづくり。

将来像

○生産仲間（GOZZUO農家）が増え、魚津のスタンダードな米づくりの実現をする！
○消費者の地域愛を育むことで地域経済がまわる！
○異業種間の人・もの・カネ・情報の流れが活発になる！

FARM HIEBATA ひえばた園 稗苗 良太 富山県魚津市稗畠1681 TEL：0765-33-9525

日本一の味噌創り ～魚津自然塾設立プロジェクト

『もしも日本に味噌や醤油がなかったら…。』

和食は塩と塩だけで味付けされていたに違いなく、とても退屈なものだったろう。日本の食文化は発酵無しには語れないと言っても過言ではない。それを支える「微生物（菌）」と「魚津の水循環（自然環境）」といった眼には見えないモノ達が与えてくれている恩恵を次代へ継承していく為に、魚津の一味噌屋としてできることは何かを考えてみた。

『かけがえのない水循環を守る』

地域での現状と課題

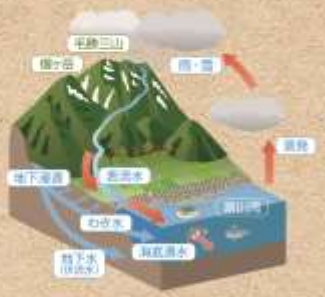
- 小売価格の値下げが進行している反面、原料価格の高騰は歯止めが効かない→製造業者の経営悪化。
- 食の欧米化によって日本食が失われつつある。
- 核家族化が進み、昔のような賑やかな食卓が減った。
- 地球高温化が更に進行すれば、味噌醸造・水循環に深刻な影響を与える。
- 農業従事者が全くいない。（特に若い世代）

宮本みその現状と課題

- 原料の自社生産に踏み込みたいが、現在のシゴト量を考えるとなかなか難しい。
- 限りある醸造設備→販売量の分析と計画的な製造量の設定（むやみに造らない）
- 味噌の本質、ストーリー（原料を作る所から味噌を食べる所まで）をもっと伝えることが大切。
- 魚津でしかできない味噌、ここでしか買えないものを創り出す→地域の特色になる。

てことで、

- 原材料は自社で作れればいい？休耕田を利用して米・大豆（在来種限定）を栽培することでこだわりの地元産原料を確保し、また土壌微生物・ミミズ等が住みやすい農地にすることで雑草の繁茂・排水施設管理の支障等を防ぐ。
- 「麹菌」が日本食の原点になっているということを次代へ伝える為のW.Sを開催。仕込み方法の指導や、麹・味噌の大切さを伝えるとともに、地域全体での味噌製造量・消費量の増加に努める。
- 人と麹（菌）にとって「良い環境」を保全する。



（魚津市HPより引用）

魚津市は、海岸から標高2400m以上の山岳地帯に至るまで、直線距離でわずか35kmしかない大変急峻な地形から成り立っており毛勝三山などの山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、川や地下水となって扇状地を流れ、富山湾に注ぐ。
豊かな自然に恵まれた魚津市は水循環の恩恵を受けて成り立っている。

『日本一の味噌創り』

Farmwork（農作業体験）
地元市民・農家からも力を借り、休耕田を利用した米・大豆・その他野菜の栽培を行う。それらを原料に味噌を仕込んだり、野菜と味噌を使った加工品の開発・販売を行う。また、できた作物を厳選し、種子の採取を何年も繰り返すことで地域オリジナルの作物を育てる。

Workshop（味噌造り体験）
Farmworkで育てた原料を使用し、味噌造り体験を企画する。魚津でしか造れないストーリーのある地域の味噌を育てていく。現場は「祖父母と孫」「親と子」といった子供達を主役にする。そこで水循環と微生物がもたらしてくれた自然の恵みの有難さを感じていただき、日本食を次代へ継承させる必要性を伝える。

Farmwork ～ Workshop までの流れ（大豆栽培）

『将来像として』

- 超高品質な原料を確保し、それを使用して日本一の味噌をここ魚津で創作する。
- 地域の味噌に対する意識を変化させ、地域全体の味噌消費量を増加させる。
- 麹の原点を広く伝えるとともに地域全体で日本の食文化の未来を考え、その必要性を伝承させていく。
- 更なる発展として「魚津自然塾の設立」に臨む…

魚津自然塾の主なプログラムの内容

＜裸足の道＞
目隠しとして裸足になり芝生、砂利、落ち葉、丸太などの様々に工夫された道を歩き感覚を刺じて第一次情報を得る。

＜森と水の教室＞
私たちの暮らしを支える「魚津の水循環」と酸素と水を供給してくれている「森」と私達との関係を考える。

＜46億年地球の道＞
地球46億年の歴史を460mの距離に置き換えた道を歩きながら、過去に起きた地球の壮大なものが足りを知見する。

＜石の地球＞
海、陸地、熱帯林のことを直径1mの石の地球を使って地球の構造や地球と太陽の関係等を学ぶ。

親子で魚津の水循環と地球を体感的に学べるプログラムを通して自然環境に関心を持つ人を増やすことで「微生物と水循環」を守っていく。

MIYAMOTO MISO

『食』を通じて、魚津の水循環を守り、地域課題を解決

魚津三太郎塾　4期生　芦﨑 里香　有限会社 ミールサービス

魚津市は、富山湾の海底から毛勝三山（標高2,400m）の山までの高低差が4,000mもあり、海抜0mからその毛勝三山までの距離が僅か25kmしかない大変急峻な地形から成り立っています。急峻な山からは片貝川や早月川といった川が河口近くまで速い流れを保ち富山湾に注いでいます。この類稀な地域の中で、私たちは当たり前のように過ごしています。川の流れが速いことは水の中の不純物の量が少ない、つまり水の質が良いということです。水は貴重です。生命の源です。私たちはこの恵まれた環境の中で、良質な魚津の水（表流水、伏流水）を利用し、『食』を育み、収穫し、生きています。しかし、生き方の多様化で結婚や出生率の減少、若者の都会流出など、社会環境は変わっていき、この魚津も1990年代後半より人口数が減少に転じています。

わが社は、この絶ゆることのない魚津の水循環に感謝するとともに、魚津の水循環とわが社の技術を活用してこれからの魚津が直面する人口減の課題に取り組み、どの様に地域課題が解決できるかを考えていきます。

これからの魚津が直面する課題

人口減少に伴うわが社を取り巻く課題

魚津の水は、豊富で水質も良い

↓

自社で農作物を栽培したい

↓

何とか組み合わせられないだろうか？

↓

水耕栽培なら自社でできる

M　Mountain / Mineral

当社の強み①
農作物を無駄なく利用

形が悪いというだけで出荷できない規格外の野菜なども用いる為、農作物を無駄なく利用。

L　Life / Local

E　Ecology / Eat

当社の強み②
食材の調理加工・盛り付け

人は環境も味覚も様々。弊社では手作りの料理を取り入れ、お客様のお食事の時間が「楽しみなひと時」となるよう、食べる方と作る者のコミュニケーションを大切にしている。

当社の強み③
見守り・声かけ・安否確認

コミュニケーションの一環として配達時と回収時に行っている「見守り・声かけ・安否確認」は、一人暮らしの方たちへ声をかけることによって、福祉サポートを行っている。

A　Action / Avail

新しい雇用の創出

主婦や定年後の方、高齢者や障がい者をターゲットに本人が希望する自由な労働時間を設定。
タイムシェア・ワークシェア・Iターン・Uターン等。

小水力発電による電力調達

今後、技術の発達により発電システムの小型・低価格化が予想され、それに伴い小水力発電を導入。事業で使用した排水で設備の電力を補い、使われた魚津の水が電気エネルギーとして再生。

商店街の空き店舗を再活用

屋内栽培による安全・安心なメニューをお客さまに提供できるお店を魚津市内の商店街空き店舗を使って出店。また、自社栽培を手がけた技術や調理技術を用いて、野菜栽培・料理教室などワークショップを行い、地域の皆様へ知識の還元を行う（魚津の水循環の大切さも広められる）。それによる、商店街を活性化、交流人口の拡大。

『ミールサイクル』5つの利点

1. 魚津の水循環を利用し、守るという環境意識の向上
2. 農業従事者減少のリスクが伴わない安定収穫
3. 屋内作業のため、気候変動を受けない安定生産
4. 自社の既存の強み・特技を活かしつつ、水耕栽培を取り入れ、魚津の水循環と地産地消に繋げる
5. 「ミールサービス」の「ミールサイクル」でブランド化

ミールサイクルから見える3つの展望

人口減少社会の中においても、柔軟な労働時間を設定することにより、新しい雇用の創出が期待。

徐々に栽培品種を増やし、自社栽培の比重を高めることによって、農業従事者減少時代を迎えても、生産力を上げられる。

不純物の量が少ない魚津の水を使った食材を使用していることを利用者にPR。従業員や利用者含め、この魚津の水循環の中で生活しているということを広められる。

企　業　名	提案者（塾生）
北日本新聞新川支社	堀井政彦
魚津商工会議所	寺口智之
（有）尾崎商会	尾崎勇人
㈱昌栄堂	松田賢悟
（有）源七	窪田祐司
江島建築工房	江島亮
荒木印房	荒木剣
ホリデザイン制作室	阿部ともみ
アシステム税理士法人	片山さゆり
（学）荒井学園新川高等学校	濱元克吉

第5期

魚津の水循環プロモーション
“海・街・山”観光促進プロジェクト

魚津三太郎塾5期塾生　堀井 政彦
（北日本新聞社 新川支社　電話:0765-24-1111／horii@ma.kitanippon.co.jp）

◆「全国植樹祭」がなぜ、魚津で開催されるのか？
答えは、魚津の「海・街・山」を巡る水循環にあり！...をPRします。

【北日本新聞社の課題】

北日本新聞社は富山県内で日刊新聞を発行して、創刊130年以上経ちます。発行部数は約23万部、県内シェアは60%を超えます。しかし、近年はデジタルメディアの発達やライフスタイルの変化で部数が減っている状態です。

生き残るために、「地方創生」の担い手として、地域と共に地域の課題を考え、市民・県民に伝え、解決を目指す事業を行い、市民の支持を得ることだと考えています。今回は直近の「魚津市の課題」に取り組みたいと考えます。

【魚津市の課題に取り組む】

2017年5月に「全国植樹祭」が魚津市で開催されます。魚津で行われる意義と魚津の恵まれた地形と水循環を活かした市民活動を全国・全県にPRする絶好の機会です。「魚津の水循環」に根差した地域の魅力を訴求することで「全国植樹祭」が魚津で開催されることの意義を伝えたと思います。

※魚津市の課題は発信力不足であると考えます。「全国植樹祭」をただ当日開催するだけの事業にせず、市民と共に魚津の魅力を県内外にアピールする絶好の機会とすべきかと思います。

【企画概要】

海
- 魚津の海の幸
- 人々の営み（過去、現在）
- 水循環の中の魚津の海
- 魚を使った新しい取り組み
- 地形と自然現象、埋没林
- たてもん行事、神社

街
- 街中の水の巡り
- 人々の営み（過去、現在）
- 水循環の中の魚津の街
- 食事処や産品、名物
- 漁師町、商店街、リンゴ畑

山
- 魚津の山の幸
- 山里での水の活用
- 人々の営み（過去、現在）
- 水循環の中の魚津の山
- 温泉、田畑、山、木

【実施内容（案）】

◆北日本新聞朝刊で、「魚津の水循環」キャンペーン特集　（海・街・山 編）

◆実際に「海・街・山」を訪ねて、魚津の「水循環」と「食」を楽しむツアーイベントを開発

◎魚津の海・街・山に暮らす、働く市民の方々の「水循環」を活かした取り組みを新聞紙面で紹介します。漁業、商業、農業、まちづくり活動、学生活動など。この連載を通じて、魚津市民が水循環を活用して暮らしたり、企業活動をしているかをアピールし、「全国植樹祭」開催都市・魚津をPRします。2017年1月～3月に掲載します。

◎魚津の海・街・山を実際に巡り、魚津の魅力である「食」を楽しんでもらうツアーイベントを行います。2017年3月に実施します。※三太郎塾のメンバーの方々（OB含）の協力を得て、魚津の水循環と、それを活かした「食」を楽しんでもらうツアーを開発します。新川高校の学生のみなさんにも案内人になっていただきたい。

東京・中板橋「うおづや」を通じて

魅力ある町・うおづを発信!

魚津商工会議所 寺口 智之

魚津商工会議所と地域

商工会議所は、地域の商工業者の世論を代表し、商工業の振興に力を注ぎ、地域経済の発展に寄与することを目的とした地域総合経済団体であり、会員会費が活動費となっています。しかし、現在では地域の事業所数が減少し、それに伴い会員数や会費収入も減少しています。一方で、会員は豊かな自然の特異性に気づいていません。

◉当所の課題

会員の減少 →収入の減少、活動の縮小 サービス・ネットワークの衰退

◉地域の課題

豊かな自然（水循環）の魅力に気づいていない

課題を解決するには?

➡「うおづの魅力」の掘りおこしが必要

水循環とは?

うおづ 最大の魅力 ＝ 豊かな食文化

うおづの“食”の魅力を 地域外に向け発信・PR

魚津の食をPRする場「うおづや」をプロデュース!

魚津市観光協会、魚津商工会議所が、東京都中板橋商店街振興組合と協力し、常設的に魚津の食の魅力をPRできる場「うおづや」を開店。中板橋商店街振興組合にとっては、地域外からの交流人口の増加、空き店舗対策、地方都市との連携が、魚津にとっては知名度の向上、魚津商品の恒常的なPR・販売、観光ツアー受入れ等による交流人口の増加など、双方にとってメリットとなる事業を目指しました。

「うおづや」OPENまでの取り組み

人	中板橋より、店長（板前）の受入れ	海風亭での料理修行・生産者の紹介
文化	うおづの歴史、文化（食文化）の紹介、伝達	生産現場の視察・見学
食	食材・商材の紹介・提案、流通経路の構築	業者、団体との連携（[illegible]）
装	店舗デザインの提案	浜辺明弘氏（魚津市出身デザイナー）の協力によるロゴデザイン のれん、はんこ、名刺、うおづ情報誌（かわら版）などの制作
モノ	魚津の作家・業者へのオーダー	食器（五島朝二氏）、陶芸家（南部歩美氏） テーブル天板（新川森林組合）等

うおづ人のこだわりが詰まった うおづの魅力あふれるお店に!

「うおづや」のしくみ

- うおづや 中板橋 消費者
- ❶ 魚津の食材 商品の提供
- ❷ 注文・依頼
- 【商工会議所会員】市内業者 製造者 作家
- 解決!
- ❶ 買いたくなる情報
  - ●観光や情報の提供
  - ●作り手の想い
  - ●生産者のストーリー
- ネットワークのチカラで支援!
- 魚津市 魚津市観光協会 魚津商工会議所
- ❸ 売るための情報
  - ●広報
  - ●商品のブラッシュアップ
  - ●専門家派遣
  - ●マッチングなど
- ❹ 魚津への観光 商品の購入
- ❺ 解決! 魅力ある魚津づくりへの参加、会員増強

「うおづや」に期待される効果

1. 首都圏での発信により、うおづの知名度があがる!
2. 魚津の生産者、加工者、事業者の売上げが増加!
3. 商品のブラッシュアップや新商品の開発!
4. イベントや観光ツアーによる人の交流!
5. 会員であるメリット、会員増強!

「うおづや」に参加することが、自分たちの活性化に繋がるという仕組みを作ります。そのために、商工会議所のネットワークを利用し、さまざまな補助事業等を組み合わせて参加者を支援させていただきます。

今後の動き

◉うおづの水循環が育む豊かな食文化の魅力を知り、より多くの方々がうおづを発信していきます。

◉魅力ある地域を知る会員が、多方面でうおづの魅力を様々な方法でPRしていきます。

◉うおづの魅力を掘りおこし、かがやけるまち魚津「STAR UOZU」プロジェクトへ!

地魚でつくる揚げ蒲鉾の移動販売

（有）尾崎商会
尾崎勇人

かまぼこ業界を取り巻く変化・状況

全国のかまぼこ消費量は年々減少している。現在、業界を挙げてかまぼこに含まれる良質なたんぱく質をテーマとしてアピールし、大手かまぼこ会社が減塩かまぼこを開発するなどして継続的な需要喚起を狙っている。富山県においては、かまぼこの消費量が全国の平均以上て、スーパーマーケットやお土産店などで県内外の様々なメーカーのかまぼこが扱われている。

未利用魚・低価格の魚を用いてすり身にし、揚げかまぼこをつくる

地元ではあまり知られていなく、また調理法が忘れられてしまった魚種を利用し、自社てすり身をつくる。未利用魚や獲れすぎた魚、機会があれば大型て値が付きにくい魚など、そのときに手に入る魚種てかまぼこをつくる。現在、かまぼこの主原料のすり身は圧倒的に冷凍すり身てあるが、冷凍すり身は魚種やランクにより色、弾力、歯ごたえの違いしかない。機械的に魚が処理されると本来の旨みがそこなわれてしまう。

移動販売では、「地魚の揚げかまぼこ」自体の売り上げを重視せず、買っていただけるお客様と、かまぼこの機能性の話題、原料の魚種の話や生のすり身から作るかまぼこの魅力をＰＲすることに努める→自社ＰＲに繋がり、小売店にて自社のかまぼこを選んて買っていただける切キッカケを作る。

催事場やスーパーマーケットなどて揚げたてのかまぼこの移動販売をする

量産型のかまぼこと違った、魚の風味と旨味のある揚げかまぼこは高級食品て嗜好性もありとても美味しい。かまぼこの魅力を多くの人たちと対面して紹介していくことがなによりの自社ＰＲにつながると考えている。地魚の揚げあげかまぼこが定着していけば、値が付きにくい魚種の需要喚起にもつながり、また地域の食文化の発展にも繋がる可能性がある。

**自社のかまぼこのシエア拡大を狙うとともに、
未利用魚など、値段の付きにくい魚種を用いて地魚の揚げかまぼこのブランド化を目指す**

この事業案の問題点

・未利用魚・低価格の魚は、主に小骨が多い、魚体が小さいなどによる処理の難しさ、またその魚種ごとの鮮度管理や加工の難しさがある。

・そうした魚は競り場に出ないまま廃棄や飼料にされる場合が多いので手に入れる方法を考える必要がある。

・近辺ではすり身の加工工場がないため、自社だけでは余裕のある時期でも加工できるすり身の量が限られている。

地産地消クッキー ～加積リンゴで魚津を元気に～

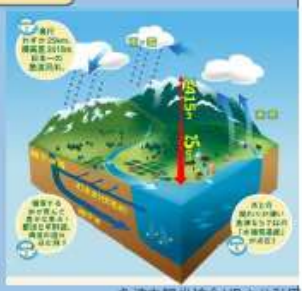
松田賢悟

加積リンゴ

生産者の庭先で販売され、ほとんど市場に出回らないことから「幻のリンゴ」と呼ぶ人もいます。100年もの歴史がありその間に培われた先人たちの努力の末に今の加積リンゴの美味しさは成り立っているのです。加積リンゴのブランド価値を底上げし、多くの方にこのリンゴの良さを伝えていくことが今後必要になってくる。

魚津の水循環

魚津市では、海岸から標高2400m以上の立山連峰に連なる山岳に至るまで、直線距離でわずか25kmしかない急峻な地形をもつ毛勝山や僧ヶ岳などの山間部へ降り注いだ雨や雪が、川や地下水となって扇状地を流れ、富山湾へと注いでいます。海へ帰った水は、雲となって雨や雪となり、再び大地に降り注ぎます。このような素晴らしい環境に恵まれた魚津市では、様々な農産物が取れ、多くの魚津市民の生活を支えております。



魚津市観光協会HPより引用

リンゴ農家の課題

1・後継者不足

2・B級品の廃棄

3・販路が乏しい

和菓子屋の課題

1・デザート類の多様化による和菓子離れの増加

2・消費者のダイエット志向や健康志向の高まりによる、お菓子離れ

加積りんごの良さを最大限に生かしたお菓子を創ろう

一級品の素材

摘みたてのりんごを即加工！リンゴ農家推奨の完熟のB級品を使用。地元の菓子屋と農家が手を取り合うことで、安価で一級品の味を再現することができる。

お土産に！

りんごの皮と果肉はジャムに加工して使用する。そのため長期の保存が可能となり、手土産として手軽に県内外に持っていくことが可能。

米粉クッキー

クッキーの材料には富山県産のコシヒカリを使用した米粉を使用。全国でも高い人気を誇る富山県のコシヒカリ。粘りが強くやや硬め、甘味のバランスがとれたお米です。

販路拡大

りんご農家一軒一軒に委託販売してもらうことで、多くの販路を開拓。加積りんごの可能性を広げる。

さらに

りんごの皮には栄養たっぷり！嬉しい美容効果も♪

1 プロシアニジン・・・りんごに特に多く含まれ、強い抗酸化作用があり、活性酸素を抑制し、血流を改善します。
2 エピカテキン・・・こちらも抗酸化作用が高く、活性酸素を除去し、血管を若返らせてくれます。その効能は、高血圧や動脈硬化、ガンなどの生活習慣病を予防します。
3 アントシアニン・・・ブルーベリーでもお馴染み、アントシアニンは、植物が紫外線から身を守るために、蓄える成分で、視力の改善や眼精疲労の予防、白内障、緑内障などの眼病を予防します。

効果

- ☑ ブランド力UP
- ☑ 水循環保全
- ☑ 地元生産者とのつながり
- ☑ 販路の増加

将来像

加積リンゴの需要を増やすことで後継者不足の解消、廃棄品の価値の底上げ、販路拡大につながり、りんご農家の様々な問題を解消できます。そして、地元の農家とのつながりをより強固なものとし、今後様々な農産物を使ったお菓子を創ることで、地産地消＝魚津のイメージを消費者に持ってもらいます。

このような地元の農産物を使ったお菓子を作ることで、県内外の方々に魚津の農産物への需要を伸ばしていき、魚津のよりよい発展を目指します。

おもち屋（有）源七

富山県魚津市にて一九八四年創業。地産地消の小さなお餅屋です。
人生の節目毎のお餅の他、富山の郷土料理の【芋かいもち】や魚津名産【バイ飯おこわ】の販売もしております。

源七の課題

❶お餅文化の継承
❷価値の創造

地域の課題

❶人口減少

元来お餅はハレの日に、欠かさず食べてきたものです。子が食べ物に困らぬよう、円満に生きるよう、餅を背負って歩く誕生餅、新築を建てた際に、周囲の方々へのお祝いや家内安全、事業反映を願う餅まき など、日本には様々な行事があり、一つ一つに特別な願いが込められています。

”ハレの日”のオーダーメイドサービス【WARASIBE】

❶シーンを選ぶ
”特別な日”
日本の食文化

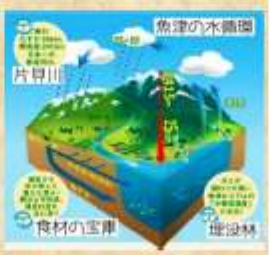
❷食材を選ぶ
”特別な食材”
魚津の水と米

❸形を決める
”特別のカタチ”
想いの具現化

❹想いを伝える
”特別な行事”
あなたの物語

地元のお話。魚津の水循環

お餅屋源七がある魚津市は、海から山までわずか二十五キロという土地です。日本一の急流河川の”片貝川”があり、立山連峰の雪解け水が一気に流れ落ちる。海に流れ出た水はまた雪になり、雨となり、川に流れ、また海に戻る…こうして一市で水が循環しています。これが魚津の水循環です。また、豊富な湧き水、地下水のおかげで、市内全域で天然のミネラルウォーターを飲む事ができます。豊富な清い水で美味しい食材が育まれる為、米・野菜・魚…様々な食材が手に入る。食材の宝庫なのです。



”特別な食材”
魚津の水と米から作られる源七のお餅

この事業を通しての将来像

❶節目を祝う
↓
❷想いを届ける
↓
❸人の輪ができる
↓
❹地域に根付く

”お餅”は人と人をつなぐコミュニケーションフード
”お餅文化”は人の輪をつくる文化
”和と輪”お餅屋 源七

『文化を守ることは人口流出の歯止め、1人1人の幸福度を向上させます』

魚津のために、家を創る。

地域課題

魚津市は、海岸から標高 2,400m以上の山岳地帯に至るまでの直線距離がわずか 25km しかない急峻な地形から成り立っており、毛勝三山などの山岳地帯に降り注いでいます。

この水循環によって生まれる水は、飲用や産業用にも利用され、さらに魚津市の水道水は 100%地下水でまかなうことができています。

この貴重な水循環を残していくためには、海の環境保全はもちろんのこと、山の保全も重要と思われます。その山の保全に有効な手段としては、間伐作業が必要不可欠ですが計業樹の需要が少なく、あまり間伐されていない山々があるのが現状です。

今日の環境負荷の増大は、日常の生活と経済活動が一因となっていることも事実です。短期的には人口減少が環境負荷の低減をもたらすという考えもありますが、長期的にみると人口減少は、労働力人口や消費者数の減少などを要因として、経済成長の鈍化や財政の悪化をもたらす可能性があります。これにより、環境保全のための投資や支出が減少し、環境技術の開発力や環境効率性が低下することも考えられます。

企業課題

当社は、昔ながらの「大工」と呼ばれる建築業です。昨今は、大手のハウスメーカーなども多数あり競争が激しい業種のひとつであります。当社は、大手のハウスメーカーと比べて広告や人件費、会社の維持費など経費に費用をかけるようなことはしません。その分を実際の工事費にかけることができ、その差は同じ金額の家でも3割近くの差があると思います。

必要経費が少ないという反面、宣伝力が少ないというより無いに等しいというのが現状です。

そのため当社のお客様は、知人や近所の方、その方々のご紹介が大半を占めています。

当社の強み

当社と大手ハウスメーカーの違いは、同じ金額の家でも、当社は会社経費が少ない分、建物にかける予算を増やすことができます。さらに昔ながらの技術で増築や改修もできます。そして地元の環境を知る大工だからこそできる地域に根ざす家創りをご提案できます。

魚津の人循環が水循環を守る。

「魚津に住みたい。」「魚津で家を建てたい。」と思う方の人口増加によって魚津の水循環を守っていくことにつなげる。

森林保全 / 意識不足 / 宣伝力不足

→ 大工さんに出会う日

大工さんに出会う日 in 魚津水族館(仮)

開催時期：夏休み
参 加 者：市内近郊の親子

・魚津の間伐材

・水族館に設置してある水循環の説明看板を利用し水循環を当社が説明する

・魚津の間伐材を有効活用したイス作りを体験してもらう

- 水循環を知ってもらう。
- 間伐材に触れてもうう。
- 当社を知ってもらう。

大工さんに出会う日
→ 水循環への意識向上
→ 当社の環境意識と技術を知って頂く
→ 魚津で家を建てる家を改修する
→ 魚津の人口維持へ
→ 魚津の水循環を守る

江島建築工房
〒937-0851 富山県魚津市住吉 3718-5
☎ 0765-24-8370

文字の総合商社への道

～書家・デザイナーマッチングビジネス～

(有)荒木印房　荒木 剣

印章業(はんこ屋)の現状・課題

①人口減による売上の減少 ②競合による客単価の下落 ③印章制度廃止の将来的不安

地域の課題

④止まらない人口減　⑤求める仕事がない為の人材流出

課題解決に向けて

現状打破・課題解決

①営業範囲の拡大　②競合店に負けない自店の優位性の強調
③印章業に特化しない、異業種への参入　④やりたい仕事の創出

魚津の水循環

魚津市は、海岸から標高2,400m以上の山岳地帯までの距離25ｋｍの急峻な地形から成り立っており、毛勝三山などの山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、地下水や川となって富山湾に注いでいます。この水循環によって生まれる水は、飲用や産業・農業用水にも利用され、魚津市の水道水は100％地下水でまかなうことができています。

この水循環はもちろん自然が生み出してものですが、そこに寄り添い生きている人がいます。人々は水に感謝し、その環境を守り生活をしています。**人が居ることにより、それが水循環を守ることに繋がると言われています。**

特に気になる点は**人口の減少**です！
自然に減少していく要因も大きいのですが、他市他県への流出も要因の一つです。
住み良い町作り、求める仕事・雇用の創出等々が必要です。
私は町作りや雇用の創出といった大きな事は出来ませんが、魚津に新たなビジネスを作り、魚津でやっていこう！と思う、きっかけを作りたいと考えています。
そこで出来る事から始めていこうと思い、
私の考えたビジネスはこちらです。

起業する時には必ずハンコが必要！

書家・デザイナーマッチングビジネス

〔書家作品実例〕
店舗　笑月 / 柊

普段皆さんが見慣れている文字は、ほとんどがパソコンで作られているフォントです。
見慣れているので、見やすい文字であると共に、見逃しがちになる文字です。
これからの会社・お店の顔となる、社名・店名をありきたりの文字で作らずに、
完全にオリジナルの文字やデザインで作ってはどうでしょう？
特に飲食店などは、そこを変えるだけで、今まで通り過ぎていたお客様を取り込む事が出来る可能性が高くなります。
当社では一般の方がなかなか接する機会のない、書家やデザイナーとのマッチングのお手伝いをさせて頂きます。
魚津市はもちろん、市内外には沢山の書家・デザイナーの方々がいます。中には自分の持つ力をどのようにして発揮すれば良いか分からずに、その才能を生かさずに過ごされている方も沢山います。

文字の好みは千差万別、人によっては何の価値もないものでも、見る人によっては素晴らしく価値のあるものになります。

〔デザイナー製作実例〕
ホリデザイン制作室作成

㈱カードックヒラタ

マッチングの流れ

お客様

⇔ 依頼・相談

当社

⇔ 委託

書家・デザイナー

看板屋 ⇐　⇒ 印刷屋

当店・地域の将来像

新たな仕事と人の繋がりにより、社業の発展、地域に雇用の創出、人の循環を生む

実印・認印・ゴム印 荒木印房
文字のトータルサプライヤー　〒937-0046　魚津市上村木1-13-23
有限会社　荒木印房　TEL/FAX 0765－22－1232

リデザイン＝成長するデザインを取り入れよう

うおづ ReDeSiGN

『リデザイン』とは――ヒト・モノ・環境を持続可能にするための**成長するデザイン**のこと。

課題

自分
- Iターンしてきたので地域での認知度が低い
- まだまだ人のつながりが希薄

地域
- デザインの重要性が浸透していない
- 魅力的な商品があるのにパッケージなどが昔のまま、もしくは伝わりにくいデザインである

ホリデザイン制作室＝アベトモミ

広告代理店、デザイン会社等を経て、2015年夏、魚津市への移住を機にフリーのグラフィック・デザイナーとして活動。デザイナーとして18年、グラフィックからパッケージ、プロダクト、イベントなどのデザイン・ディレクションに関る。仕事の傍ら、全国の地域を巡る旅をしており、現在21県ほど。秋田県出身。

ヒト

出会った地域のヒトはみなかけがえのない個性を持っている。個性を活かしたヒトのチカラを「旅のヒト」目線で発掘！

モノ

ヒトや環境が生み出す財産。魚津市には水循環から生まれた、他にはない生産物がある。

地域

ヒト、モノを生み出す環境。うおづには世界的にも稀有な自然環境「魚津の水循環」が存在している。

持続可能な地域にするには？

ReDeSiGN
リデザイン
@ホリデザイン制作室

モノ　新たな価値を創造

話題性を高め、新たな購入層を開拓、既存品の魅力を見直す機会に

例）もともとある商品が売れない
「プロダクト、パッケージのリデザイン」

間伐材コースターをリデザイン
うおづらしいコースターに
水族館のお土産としての提案も

ヒト　問題を解決するデザイナーとして

根本から問題解決し、イメージを統一するデザイン・ディレクションができる

例）会社のイメージを一新したい
「ウェブサイト、広告チラシのリデザイン」

地域　地域の特性をさらに魅力あるものに

現状を手直しする形で、新たな交流イベント、交流スペースをリデザイン

例）旅する人が気軽に立ち寄れるスペースを
「コワーキングスペース&本屋」
空き屋の位置や状態を可視化する
「空き屋マッピングらぼ」（仮）

蜃気楼ー魚津を象徴する場所に新スポットを
「しんきろうロード ドロープロジェクト」（仮）

水循環を巡るツアーを刷新したい
「ツアー内容や参加者募集のリデザイン」

魅力あるヒト・モノ・環境で、持続可能な地域へ

© ホリデザイン制作室　代表 アベトモミ

●グラフィックデザイン　●デザイン・ディレクション
〒937-0018 富山県魚津市 ☎080-5587-2541 ✉toms0530206@gmail.com tomscreation

毛勝三山：事務所屋上から撮影

価値を創る力を身に付ける
子供向けプログラミングスクール

魚津三太郎塾　5期生
アシステム税理士法人
片山　さゆり

「富山県の中小企業を元気に」を合言葉に

1 企業課題

ＡＩ(人工知能)により、将来なくなる職業に会計事務所があるんやって。
仕事なくなったら困るし・・・
10年後20年後、コンピューターやロボットに置き換わる職業がたくさんでてくる。

2 地域課題

魚津市の人口もH52年の2040年には3.2万人やと。**人口減少**と**少子高齢化**問題か。
若者の地域離れも問題やよ。
なんでかね？地元にやりたい仕事ないから？この恵まれた魚津で何かやりたいこと見つけて仕事にできたら最高やね！
そんな若者がたくさん増えて欲しいわ。

3 仮説

プログラミング教育によって
子供たちは自分のやりたいことを
自分の手で生み出し発展させる能力が
身に付き、将来はここ魚津で創業をし、
雇用をし、魚津市の**人口減少を緩和し、人口維持**が期待できる。

4 事業内容

【子供向けプログラミングスクール】

★プログラミング基礎講座
Scratch(スクラッチ)や文科省のプログラミンなどの子供向けに開発された言語を使ってプログラミングの基礎を学ぶ
★ロボット工学講座
ロボットの基本製作を通してロボットの動作プログラミングを学ぶ
★アプリ開発講座
iPhoneやWebのアプリの開発を学ぶ

なぜ、税理士法人がプログラミングスクール？
10年後20年後を見据え、地域発展のリーダーシップをとっていくことが私たち企業の使命だからです。

創造する未来へ

TKC全国会
アシステム税理士法人

5 効果

Q：なぜプログラミングなの？
A：まず、**論理的思考力**や**問題解決能力**が身に付きます。次に、プログラミングができてスゴイという時代から**プログラミングはできて当たり前の時代**になります。その前にやることが必要です。

Q：なぜ小学生からなの？
A：プログラミングは文章の読み書きや計算といった子供のうちから身に付けるべき基礎的な学力という位置づけです。都心では既に子供向けプログラミング教育が激化しており何もしなければ都心との**教育格差**も懸念されます。

6 展開

①2020年から小学校でプログラミング教育の**必修化**が検討されている。

②パソコン1台あれば体ひとつで勉強もできるし仕事もできる。**魚津を仕事場**として選択できる。

③需要と供給で言えば、圧倒的にプログラマーが不足しており、今後はプログラマーの質が問われる時代に入る。**ＩＴを使う側から創りだす側への移行。**

④地元の職業訓練施設等との**連携**、小学校の放課後スクールや夏休みを利用したキャンプなど様々な形を模索する。

⑤魚津っ子、**ALLプログラミングマスターへの道**

7 未来像

◎**モノ作りもデジタル化の時代。**モノ作りが盛んな富山も将来的にプログラミングは必須能力となる。

◎プログラミング教育により、多くの事業家が生まれ、**人口を維持し続ける魚津市**となる。人により里山が守られ、魚津の水循環も守られる。

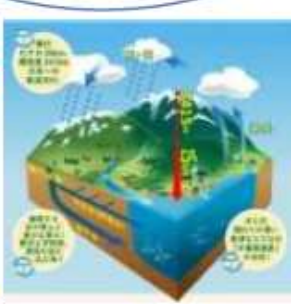
◎魚津出身のプログラマーによって、魚津の豊かな土地、水循環が**全国へ世界へ発信**され、多くの移住者を惹きつける。

◎魚津から**新たな三太郎博士**が誕生する。
四太郎、五太郎・・・百太郎

アシステム税理士法人とは

地元で45年、お客様と共に100年続く企業経営を目指し日々、会計を通した経営支援を行っています。また、本田経営研究会では通算200回もの経営者の勉強会・交流会を開催し、経営に強い経営者の育成およびネットワークの形成を願っています。他にも、創業スクール、地域ボランティア等を通して企業発展のパートナーそして地域社会に貢献するために活動しています。

魚津のまち、わたしたちの町、
高低差3400mの魚津の水循環は、わたしたちに様々な恩恵をもたらしてくれます。雨水が山脈や平野に降り注ぎじわじわと大地の栄養素を取り入れた魚津の水のように、魚津の魅力・恵みで育った若者が、魚津を元気に、富山を元気に、そして世界で活躍する魚津人へと成長していってほしい。**子供たちへの教育は私たち大人の役目であり、使命です。**



魚津の未来をつくる人をつくるプロジェクト

KAWA　新川高等学校　濱元　克吉

はじめに

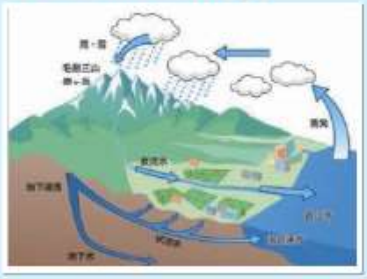
新川高等学校は１９７３年（昭和４８年）創立の新川地区唯一の私立高等学校です。約９０００人の卒業生が地元地域で活躍しています。富山県内の高校生の地元進学率が２割を切るなか、新川高校の卒業生のほとんどが県内の企業に就職し、また、地元の上級学校に進学します。地域を支えているのは新川高校と言っても過言ではありません。

皆さん、未来の魚津を想像してみてください。今、存在していない職業もたくさん出てくると思います。外国からもたくさんの人々が魚津に住み、一緒に仕事をすることもあると思います。皆さんが活躍する未来は、どこにいても世界中の様々な考え方を持つ人とコミュニケーションをとっていかなくてはいけない世界になっていると思います。また、日本は少子高齢化が進み、２０年後には全人口の４割が６０歳以上となります。そしてそれを現在の４分の３まで減った若者が支えていかなければいけません。

これからは、今までででは考えられなかったスピードで世の中の仕組みが変化していきます。「勉強が得意かどうかではなく、常に学ぼうとするかどうか」です。これまでの学びは、知識を身につけることでした。今は、調べる道具がそろっています。ただの知識は情報に置き換えられる時代です。これからの学びは、情報を使いこなす「知恵」が必要になります。この「知恵」を地域を知ることを通して学び、**「生きる力」**を身に付けていきます。

未来を支える若者が必ず知っておかなければならない水循環

世界の自然の範囲と言われるほどの魚津の自然。そして水循環。豊富な海の幸や山の幸、観測読発生のメカニズムまでもが、この魚津特有の自然環境がによるものです。あまりにも身近な存在でありながら、大変貴重な環境であることを地域に住む全員が理解しておかなくてはいけません。



社会で生きていくために

今年度、新川地区の県立高校で定員を満たさない高校が複数校ありました。原因の１つとして考えられるのは、新川地区の生徒のうち富山地区の高校を受験した生徒が増加したことです。理由は様々あると思いますが、子どもたちが富山地区の方に魅力を感じていることに間違いは無いところと思われます。同じような状況が、全国各地で起きています。

これからの時代はグローバル化が更に進みます。しかし、英語が話せたり、都市や海外で活躍することだけがグローバル化では無いと考えています。地域の魅力を世界レベルで考えられること、そして何より社会で**生きる力**を身に付けることこそグローバル化に対応するために必要なことではないでしょうか。

高校で十分に力を付けてから社会へ羽ばたかせ、地域の未来に寄与することが、我が校の使命と考えています。

地域に残り、
地域を支える若者の育成

↓

地域を正しく知る
地域を愛する心

↓

社会で生きる力の習得
グローバル化へ対応

↓

未来の魚津
地域活性化

新しいPTA活動
コミュニティビジネス委員会

【目的】
・生徒に学業以外の**生きる力**を身に付けさせる
・生徒に地元の良さを理解させ、地域とのつながりを持つ

生徒の力で起業
商品開発

↓

地域の課題発見
魚津の特産品取り入れ

↓

魚津の水を使ったコーヒー
『○○魚津』に挑戦！！

魚津の水は、魚勾配な地形を短時間で通過するのが特徴。
ミネラル分が他の地域の水と比べて少なく、絶妙なバランスがコーヒーの味を引き立たせます。
コーヒーはこういうものという固定概念がない若い高校生が作った初めてのコーヒー。
延べ１６種類をテイスティングして、この味にたどり着きました。

人材育成の仕組みづくり

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」
||
「社会人基礎力」（経済産業省Ｈ18.2）
＜３つの能力/１２の構成要素＞を元に、事業イメージを構成

地域を知る活動を通して生きる力を身に付ける仕組みを完成させ、
将来に渡って魚津・新川地区を担う人物を輩出していきます。

オリジナル商品開発を通した人材育成

「生きる力」を備えた地域を支える人材

新川高校の発展

魚津・新川地区の発展

魚津三太郎塾
ポスター集

第6期

（平成29年7月～30年3月）

平成30年3月9日作成

企　業　名	提案者（塾生）
日本料理　海風亭	美浪 呂哉
ココマカロン	大島 恵
富居幸一・芳弘りんご園	富居 芳弘
Matin（マタン）	浜田 孝司

SUSTAINABLE SEA CITY UOZU

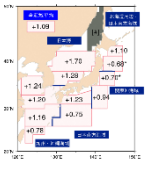
料理の想像力は地域の未来を創れるのか

KUTIFUKUGROUP　海風亭
Tomoya Minami

- 2012~転機-
たった一つの出会いが人生を変える事もある

2012年3月　三太郎塾一期生として入塾
5代目として受け継いだホテル、飲食店は当時火の車
三太郎塾に出会い、魚津の水循環、経営哲学、圧倒的な
ボリュームのインプットに衝撃を受ける

-課題-
世界の海の3倍のスピードで水温上昇が進む日本海



・地球規模で進む温暖化
・海水温の上昇は水産資源の大きな課題
・乱獲などの影響もあり、人の食べる魚類は40年で半減
・コンパクトな魚津だからこそ世界のモデル、ジオラマに
・魚津市民が先頭に立って、地球の海を救うストーリー
・食い止める事が出来ない変化にどれだけ対応できるか
・サステナブルと言う価値観を魚津に根付かせ、生活の一
　部と出来るか

-2013~成果-
魚津 CSV statement

三太郎塾の学びを元に、魚津を伝え、守るをコンセプトにメニュー開発
その後は、コンセプトに従って、店づくりを一から見直し、海風亭＝魚
津を味わえるという認識を高め、メディアにも多く取り上げられる
事業開始1年目(2013)で売上１割増　現在では３割増に迫る

-2014~仲間-
料理人とは　何を伝え　何を解決し　何を産み出せるのか

一人間、美浪呂哉が料理という手法を用いて何が出来るのか
生産者や作家、料理人仲間と繋がり、次世代へ食を通して地域のプライド
を創れるか　東京ではうおづやを通して魚津の豊かさ、文化を伝える

-2015~深度-
結び、作り手と食べ手の誇りを創る

地域と向き合い、学び掘り下げるために、四季に合わせ美食会を開催
地元の作家、生産物を結び、伝える。
ガストロノミー　ただ美味しい物を作るのではなく
時と、人と、場所と、想いを、結び、価値を産み出し、伝える

-2017~自信-
料理の想像力が地域の未来を創る

日本最大の料理コンペ　REDu-35にて、日本人22人に選ばれる　シルバーエッグを獲得
魚津を伝え、守りたいというストーリーが客観的に評価され、日本のトップと渡り合え
ることを証明できた　そんな自分だからこそ出来るローカルガストロノミーとは？

-2018~未来-
価値観を共有するコミュニティビジネス
SUSTAINABLE STANDARD

暮らし、生活、仕事の一部となる事が地域資源とそれぞれの課題解決へ
第二の安定的収入源とセカンドスタイルの提案

-01-
ダイニングアウトツアー

『観光、移住』
水循環、スローライフ、食材
料理人、生産者、地元民と行くツアー

-02-
駅前ストリートカルチャー

『販路拡大、BtoC』
作り手の想い、お客様の声をダイレクトに受け取
れる屋台、移動販売、お弁当
魚津ストリートカルチャー

-03-
シェア出来るempty

『空きテナント活用、
働き手不足、新たな公』
シェアスペース
託児所、茶道カフェ、ギャラリー、直売所、体験
企業と空き店舗と経営者、業態をマッチングする

-04-
サステナブルマークブランド

『意識向上、シビックプライド』
サステナブルマークブランド
世界の海を守ると宣言する

-05-
オーガニックなお米

『安心安全、インバウンド』
オーガニックの世界基準を超える
ワールドスタンダードを魚津から
補助制度の提案

『5年後にはカルチャーにしたい』料理人が先頭に立って、異業種で作るコミュニティが魚津の海を守り未来を創る

同時多発的に巻き起こる新しい風
この嵐を抜けた先にあるものとは！！

暮らし、生活、仕事の一部となる事が地域資源とそれぞれの課題解決へ　第二の安定的収入源となり共有できるセカンドスタイルの提案
サステナブルをコンセプトに掲げるコミュニティビジネスが始動！！

体験、美食を通して住みたくなるくらい好きになる

-01-
ダイニングアウトツアー
『観光、移住』を目標とする
水循環、スローライフ、食材
料理人、生産者、地元民と行くツアー

地域課題　貧弱な観光資源　魚津市民の減少　漁獲量の減少　絶滅危惧種への認知の低さ　一次産業離れ　シビックプライド

企業課題　顧客の減少　食べ手側の食材付加価値の認知の低さ　後継者不足

課題解決　交流人口の増加　美食の街のイメージ戦略　付加価値の底上げ　移住　人材確保

コミュニティ　美浪館　海風亭　浜多屋　四季料理悠　新川食文化研鑽会　魚津漁協　魚津農協　三太郎倶楽部　新川森林組合　MK農産　稗苗農園　加積りんご組合　稲森ファーム　辻仏壇　魚津市観光協会　商工観光課　企画政策課　西部トラベル　魚津市民　メディア他

内容　　主に三太郎塾で水循環を共に学んだ生産者の元へ、料理人が同行し、食材を集めるダイニングアウト形式　魚津の地形、豊かさが伝わる野外(桃山運動公園)、施設(埋没林博物館)をレストランの舞台とし、コース料理を振る舞うサステナブルフードを使った美食での観光。同行する地元の人と交流し民泊する　観光、移住を目的としたコンパクトツアー

水の巡りに会える旅

黒部宇奈月温泉駅から、バスに乗ること30分、海と山が極端に近い魚津市に着く。片貝杜の山キャンプ場では湧水を使った香草茶を。豊かな里山に広がる田園風景と円筒分水槽からは豊富な水の恵みが感じ取れる。それからわずか１５分で海に出る。蜃気楼の見える海岸線沿いを歩き、古代の杉が眠るという埋没林博物館へ。高低差４０００ｍを駆け巡る水の循環が魚津の宝だとよくわかる。そんな自然に恩恵を受ける魚津の資源。埋没林の広場で待っていたのはダイニングアウト。その日その時、その場限り、たった一度の野外レストラン。腕を振るうのは、魚津に拠点を置く４人の料理人。

ツアーの最中、生産者のもとを訪れ、採取した食材を調理し、コース料理を提供してくれる。どれも地元に根を張り、高い技術を持って調味されたここでしか味わえないものばかり。目の前に広がる富山湾。後ろを見れば雄大な立山連峰。ゆっくり過ぎる時間と料理とお酒。こんなにも贅沢なシチュエーション、時間はない。それから水族館などを巡り、チェックインを済ませ休んだあと、夜は魚津の駅前飲食街でバルイベントに繰り出す。魚津にはこんなにも豊富で個性的な飲食店があるんだと実感する。

人と人、人と物の出会いが自然と街を笑顔にする

-02-
駅前ストリートカルチャー
『盛り上がり、販路拡大、BtoC』を目的とする
作り手の想い、お客様の声をダイレクトに
受け取れる屋台、移動販売、お弁当

地域課題　貧弱な観光資源　一次産業離れ　街に活気が無い

企業課題　顧客の減少　食べ手側の食材付加価値の認知の低さ　BtoC出来ない

課題解決　交流人口の増加　美食の街のイメージ戦略　付加価値の底上げ　街の賑わいを作る

コミュニティ　海風亭　浜多屋　ココマカロン　源七　石崎蒲鉾　宮本味噌店　藍屋　魚津クリアーラーメン　新川森林組合　他

内容　サステナブルシーフードを使ったサンドイッチ、串焼き、浜焼きを売る移動販売車　その周りに集まるコンパクトなマーケット　森林組合で作る間伐材を活用した使い捨てのプレートや、箸、お弁当箱などで提供する　サブカルも織り交ぜカオス感を演出する　駅前の飲み屋街のど真ん中に位置する美浪館駐車場を活用し、月２度行う　美浪呂哉がプロデュースする、サステナブルフードで作る弁当を開発、販売

いつも新しいカルチャーはストリートから

魚津に宿をとり、明日は仕事。小さな駅で降り、人通りの少ない閑散とした雰囲気。ホテルでチェックインを済ませ、部屋で休んでいるとお腹がすいてきた。飲食店は多いみたいだから適当に入って済ませよう。そんな思いで歩いていると何やら町の中心にある駐車場ががやがやしている。何かのイベントかと行ってみると屋台が出ている。少しのぞいてみると、それぞれのお店のクオリティの高さに驚かされた。商品の向こうにあるサステナブルというメッセージにも感動した。美味しい物がいつまでもおいしく食べられるように、この街は動いているんだなあと考えさせられた。アートやフリースタイルのサブカルなども織り交ぜられた空間はカオスで居心地が良い。また同僚と来ようと思う。

共有できる価値観が新しい形になり価値を生み出す

-03-
シェア出来るempty
『空きテナント活用、働き手不足、新たな公』を目的とする
資源も人もサステナブルがテーマのシェアスペース
託児所、茶道カフェ、ギャラリー、直売所、体験
企業と空き店舗と経営者、業態をマッチングする

地域課題　空き家、店舗、テナントの増加　貧弱な観光資源　寂れた通り　昼に歩ける観光スポットが無い

企業課題　直売できる場所が無い　企業イメージ、ブランド力の低さ　認知度の低さ

課題解決　交流人口の増加　付加価値の底上げ　空き店舗対策

コミュニティ　海風亭　ココマカロン　源七　宮本味噌店　藍屋　松本雄太郎家具製作所　新川森林組合　浜田あきのり設計事務所　尾谷工務店　他

内容　　継続可能なシェアスペースを作る　店舗として、直売所として、ギャラリーとして、カフェとして、レストランとして、それぞれの専門を活かし、集まる事でエリア価値の高い一店舗として集客できる　それぞれの重荷にならないことが前提　また製造業や、建設業などの大手企業とも連携し事業を拡大する。企業にとっては会社の理念、商品紹介、体験を通してブランディングできる　観光や、資源活用といった面で地域貢献できると言ったメリットがある　またキッズスペースも併設し、働く側も、消費者も子供と来れる環境づくりをする　駅前では２階テナント、空き家が多数、八号線沿いでは大きな箱多数、何年も放置状態である　交渉次第では安価な家賃で借りれる。また初期投資も定額で済むような店舗もある。

宣言することから始めてみる

-04-
サステナブルマークブランド
『意識向上、シビックプライド』を目的とする
世界の海を守ると宣言する

地域課題　資源の減少　絶滅危惧種への認知の低さ　危機意識の低さ　シビックプライド

企業課題　食材付加価値の認知の低さ　企業イメージ、ブランド力の低さ

課題解決　持続可能な漁業、農業　街のイメージ改革

コミュニティ　魚津漁協　魚津農協　魚津市　サステナブルな商品、働き方を推進する企業　他

内容　　国際基準の魚のエコラベル『MSC』日本では唯一京都府が取得している　魚津市さん取得してください　また市民向けに市内でサステナブルな商品、働き方をしている企業の商品に魚津市独自のマークを発行　マークを集めると協賛企業で使える金券が貰えたり、魚津ガチャをひける

ワールドスタンダードを当たり前に

-05-
オーガニックなお米
『安心安全、インバウンド』
オーガニックの世界基準を超える
ワールドスタンダードを魚津から
補助制度の提案

地域課題　インバウンドで重要なカギとなるオーガニックへの対応の遅れ　交流人口の減少　農薬による土壌汚染　飲食店の減少

企業課題　割高になってしまうオーガニック米　温暖化からくる収量の減少　コメ離れ

課題解決　交流人口の増加　付加価値の底上げ

コミュニティ　魚津飲食業組合　ＭＫ農産　稗苗農園

内容　　無農薬、減農薬などのオーガニックと言われる作物は、手間がかかる分価格も高くなる。海外から見れば日本の常識ははるかに遅れており、それでも環境や体に良いものが売れる時代になっているし、今後もっとその価値観は増えるであろう。その中で、魚津の飲食店街でのインバウンド戦略は破綻しているといえる。まずは米のありかたを見直すべきである。補助制度を作り一般的な値段で魚津の飲食店がオーガニック米を買えるようにする。

同時多発的に事業を継続させることで5年後には、魚津の客観的なイメージを
「Sustainable sea city」「環境への高い意識を持つ美食の街」
へと戦略的にブランディングする事と同時に
市民に高い意識、プライドを根付かせる事を目的とする

キラキラ輝くママプロジェクト

ココマカロン　大島恵

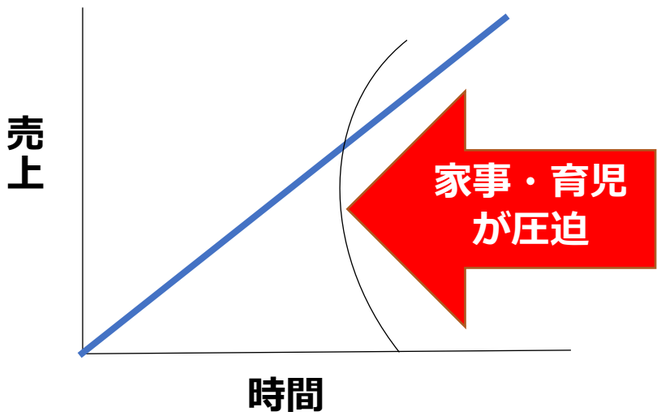
1．フリーランスママの現状・地域課題

２０１８年・・時代は
「**働き方改革**」と言われ、ママやお年寄りなどみんなが活躍できる社会を目指していこうとしている。
しかし、ママのワークライフバランスは家事育児仕事が密接に絡んでおり、ママが活躍することは簡単な事ではない。

ママはシンデレラ

時間が来たら母になる。残業も出来ず、イレギュラーな出来事（子供の風邪）等にも振り回される。
仕事にかけられる時間が決まっているため、1馬力では収入も少ない。業務も経理、販売促進、市場開拓などを全て1人でやらないといけない為、ビジネスとして成立することが難しいママが多い。

売上と時間のバランス



決められた時間の中で売上を稼ぐことは難しい。

自社（フリーランスママ）の課題	地域課題
• 働ける時間が限られている • 売上低 • 経営のスキル不足 • 子育て・家事との両立 • 孤独 • 家族・周りの理解	• 出産数の減少 • 合計特殊出生率の低下 • 若者人口の流出

2．プロジェクト始動

魚津市にはフリーランスで頑張るママが何人もいる。潜在的にはもっといる。そんなママたちも同じような悩みを抱えていることがわかり、フリーランスママが結束することで、１馬力が１００馬力になる事に気づいた。**３足のわらじを履くママの会**発足！

藍染作家

藍染作家

パン職人

ベビーマッサージ

ハンドメイド作家

マカロン作家

活動内容

子育て助け合い

子供を預かり合う仕組みを作る→
活動できる時間が増える。活動の幅が増える。

情報発信（ワークショップ・イベント情報）

個々で発信している情報を集約して発信→
周知アップ。他のママへの拡散アップ。

勉強会・相談会

ママのための経営学を学ぶ→
適切なスキルを習得。ママ同士相談することでモチベーションがアップし、団結力が生まれる。

販売場所の拡大

市内の朝市や空スペースを利用。個々では使用できない場所も使用できる。個々で販売するより集客数のアップ。認知度アップ

運営方法

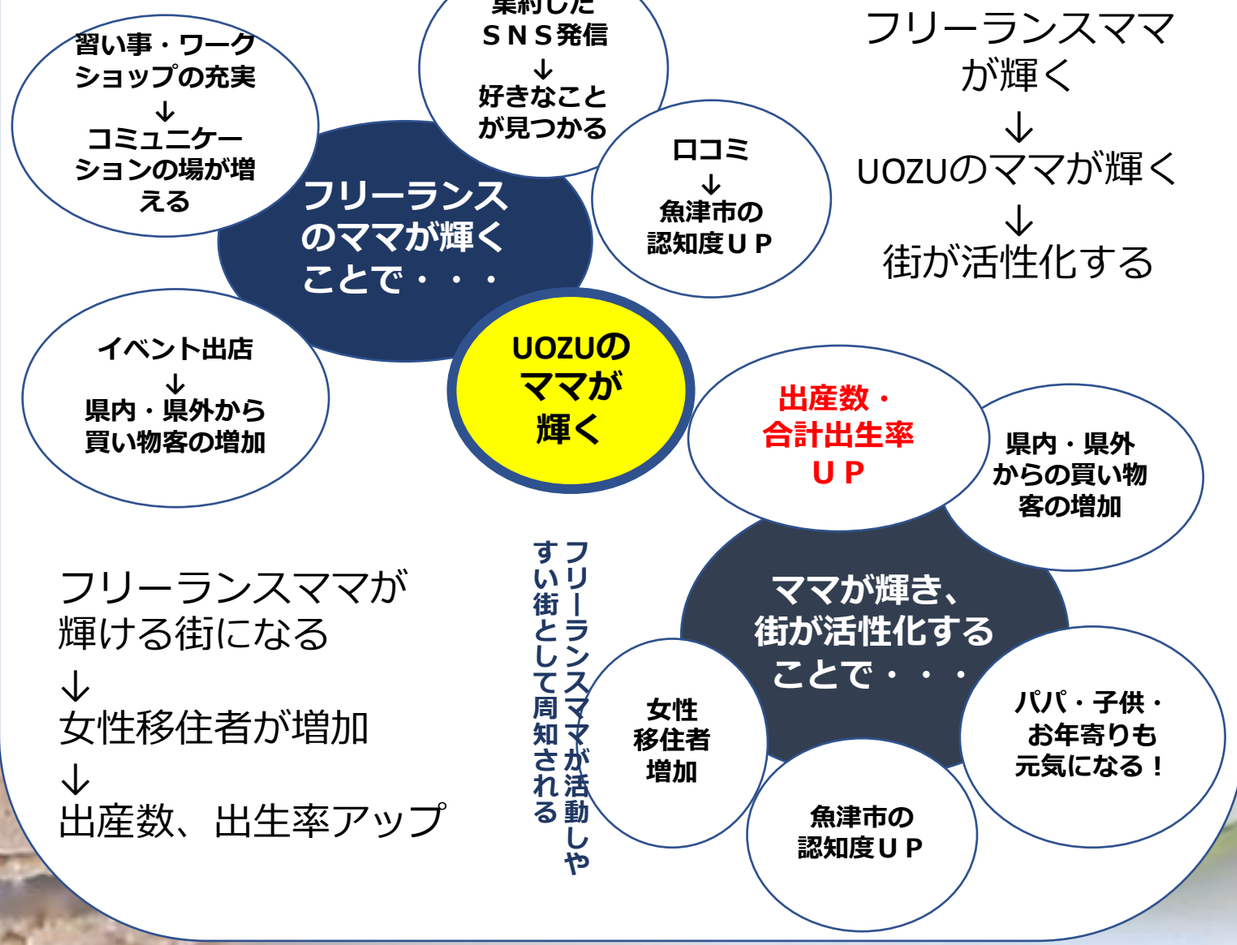
営利目的ではなく月額費などはいただかない。（自分のメリットとトレードオフ。）都度、必要な時にお金を出し合う。
子育て助け合いに関しては検討中。

3．フリーランスママのメリット・地域の効果

フリーランスママにとってのメリット

- 売上げアップ
- スキルアップ
- イベント出店などを通して販路拡大
- 認知度アップ
- モチベーション

地域の効果



4．展望（水循環との関わり）

魚津特有の地形がもたらす水資源
「水循環」
魚津市に住むママは子育てにおいて、その恩恵を受けてる
・新鮮で美味しいものを食べさせられる安心感
・山と海の自然から育む豊かな心
・四季を感じるアクティビティーによる経験

魚津は、ママが子供を育てたい街だと言うことだ

ママが輝ける街
＋
子供を育てたい街

＝２つが合わさる事で、
他にはない唯一無二の街になる。
ここＵＯＺＵだからできる
皆が輝ける笑顔あふれる街を目指して

a problem 課題

加積りんご農家の課題と現状

後継者不足

生産者の高齢化

生産減少

余剰品廃棄

売上減少

ブランド力低下

富居りんご園

- ●新規顧客獲得
- ●地域外への認知度上昇
- ●消費増加のための新たな取組み

【富居芳弘プロフィール】

projects 事業内容

産地を守る「思考の循環」

魚津の水循環

果樹栽培に適した魚津ならではの自然環境・地形

できっこないこともやってみなくちゃ！

思考の循環C

想いを伝える

思考の循環A

五感に響くりんごをつくる

思考の循環B

新たなビジネスのかたち

思考の循環C

「想いを伝える」

- ●食育やワークショップを通じたアピール
  子供から大人まで世代に応じたコミュニケーション方法でイメージアップ
  生産者のこと、地域のことを知ってもらい、地元への関心をもってもらう
  例）小学生へ紙芝居を使ったワークショップ
  ＝子どもたちに夢を語ることで加積りんごやりんご農家として活動することの魅力を感じてもらう
- ●効果的なPRで認知度を上げる
  ＝ブランドの魅力アップ担い手の関心を惹くようなPRを

思考の循環B

「新たなビジネスのかたち」

- ●新たな食べ方の提案で消費者層を拡大
  加工業者や異業種とのコラボレーション促進
- ●対面販売の特徴を活かす
  地域コミュニティからより広範囲のコミュニケーションへ
  →配達サービス余剰品を利用した加工品生産・販売
  ＝進化する『親切経営』
- ●廃棄ゼロを目指す
  大切に育てた商品を、最後まできちんと売る意識へ
  生産の可能性を追求
  ＝販路拡大、生産性向上

2017年地元加工業者とコラボしたりんごゼリー

思考の循環A

「五感に響くりんごをつくる」

- ●記憶に残るおいしさを追求
  地域の魅力を思い出すきっかけに
- ●良いものを適正な価格で売る
  所得向上・魅力ある職業になることで雇用を生む

コロがスゴイ！加積りんご

- ●100年超の歴史を誇る産地
- ●りんご生産地域ブランドとして全国で2例目の認定
- ●樹上完熟
- ●対面販売が主流
  別名「幻のりんご」
- ●組合員すべてがエコファーマー認定者
  ＝持続性の高い、環境にやさしい農業生産法

prospects for the future 今後の展望

加積りんごブランドを守る
3つの『思考の循環』を推進

生産者・加工業者・消費者

持続する『加積りんごブランド』へ。

魚津の“りんご畑がある風景”を守る

富居りんご園／富居芳弘 〒937-0041 富山県魚津市吉島903 TEL.0765-22-2216 富居 芳弘

MATIN ANTIQUES

Matin=衣料品販売店。生まれ育った魚津で、若い世代に米オレゴンからの輸入衣料品を販売しています。

魚津三太郎塾６期生
浜田孝司

魚津の子供たちに世界を見せたい
スタンドバイミー魚津

当社の課題

通販での販売が売り上げ全体の7割を占めている。

想いを伝えるためには店頭での販売が必要！顧客のすそ野を広めたい！！

社会の課題

留学者が減少傾向にあるといわれている。

グローバル、積極的、冒険心にあふれた子供を育成したい。

地域と連携して課題解決しよう

わが街魚津市の教育方針
英語教育の充実

×

わが社 Matin の目標
店頭売り上げ増

異文化交流型人循環プログラム
「スタンドバイミー魚津」

■目的：交換留学やサマーキャンプを体験する場を提供し、国際コミュニケーション能力を身につけた子供を育成する。
■行先：オレゴン州（ポートランド近郊）
＝海の町。魚津のことも知っている。
期間：平成 30 年7月 27 日～8月7日
対象：魚津市小中学生（人数3人）
課題：参加費（検討中）
■特徴：現地仕入で培った、旅行企画会社ではできないような内容の濃い体験の場を提供。

展望

人循環プログラムの実施
↓
国際コミュニケーションに興味を持つ子供の育成
↓
アメリカンスタイルへの興味

さらなる波及効果
・国際ミュニケーション
・故郷を知る
・移住者増
・BP の育成
・BP と連携
・国際交流

得られる効果
Matin：顧客や BP の獲得
参加者：外向きな若者に
魚津市：世界に通用する人材

Matin から始まる Win4
Win1：自社の課題解決（Matin）
Win2：英語教育の拡充（魚津市）
Win3：満足、スキルアップ（参加者）
Win4：魚津の世界進出（地域、企業）